

わが子のあゆみ

岐阜県PTAが作る子育て情報機関誌

7

2014.7 NO.433
初夏号
第66巻1号



学習発表会では「つたえる やりぬく どうどうと」のスローガンのもと、音楽、国語、郷土学習の取り組みについて発表しました。全校合唱では「笑顔を大切にしてエールを送れば、世界中の人が元気になれる」という願いを込めて歌いました。

たかやましりつあさひしょうがっこう
高山市立朝日小学校

●【学校の教育目標】

— 自分の力でうごきだす子 —
つなぐ やりぬく じぶんから

高山市立朝日小学校

郷土学習

本校は7年前に4つの小学校が統合し、広い校区を持つこととなった。その広い地域のことを子どもたちがよく知り、地域のよさや地域で生きるための生き方から多くのことを学び、自分の生き方を担ってほしいと願いを持って郷土教育を進めている。調べたり、話を聞いたりするだけでなく、自分たちは何ができるかを探りながら、発表の場を待ったり、地域に貢献できる活動までつなげたりしながら取り組んでいる。また、保育園・中学校とも連携しながら12年間を見通した中で郷土教育を進めている。

がんばる子らの
汗と笑顔と眼差しと



1・2年：道の駅探検

学校近くの地域を探検しました。道の駅では駅長さんにどんなものが売ってあるのかを取材しました。



1・2年：デイサービス訪問

お年寄りの方に歌や踊りを見ていただいたり、お話をしたりして楽しく過ごしました。



3年：山野草の観察

高根地域の子ノ原高原に出かけ、山野草の学習をしました。高地で育つ特徴ある植物をたくさん紹介していただきました。



4年：タカネコーンの収穫

日和田地区で春から育ててきたタカネコーンを収穫しました。とっても甘くておいしいコーンがたくさん採れました。



5年：わらび粉づくりについて

秋神地域では、昔、わらびの地下茎からでんぷんを取りだしてわらび粉を作り生活の糧にしてきたことを教えていただきました。



6年：「野麦を越えた女工たち」を演じて

飛騨と日本のつながりを信州へ出かけた女工たちの生き方から学び、学習発表会では劇にして演じました。

わが子のあゆみ

2014.7 No.433 初夏号
第66巻1号

発行：岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
編集：岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
頒価：200円 年間1,000円
この刊行物は一部岐阜県からの助成金を受けています。

バックナンバーのお求めは
058(262)3257
県PTA連合会事務局へ



【ぎふしりつながりがししょうがっこう】

岐阜市立長良東小学校

- 住所 〒502-0056 岐阜市長良真生町3丁目9番地
- TEL (058)233-7203
- FAX (058)233-7294
- URL <http://cms.gifu-gifu.ed.jp/nagarahigashi-e/>
- メール giso44@nagara-e-e.gifu.ed.jp
- 児童数 688名



校歌



長良東小学校校歌

作詞 平光善久
作曲 兼田 敏

一、歴史きびしく そびえたつ
金華の峰と 百々が峰
仰ぐひとみの かがやきに
自主の誓いの 誇りあり
長良東小学校
伸びやかに 学ぶ

二、清き流れの 長良川
りりしく泳ぐ 鮎の子が
ころやさしく 寄せ合て
みがくいのちに 光りあり
長良東小学校
たくましく 育つ

三、みどりゆたかに 恵みある
長良の土を 踏みしめて
日々に新たに 創りゆく
目指す未来に 望みあり
長良東小学校
かぎりなく 進む



▲啐啄の石碑

学校の教育目標 郷土を大切にし、みんなの幸せを願い、個性豊かな自己実現を目指す子

学校の教育目標

郷土を大切にし、みんなの幸せを願い、個性豊かな自己実現を目指す子

- ・自分の考えをもち、進んで問題に取り組む子
- …自主
- ・助け合い、みがき合って、みんなのくらしを高める子
- …連帯
- ・自分で感じ、見つけ、工夫して生み出す子
- …創造
- ・手足を動かし、ねばり強くやりぬく子
- …実践行動
- ・自分のからだを知り、たくましくきたえる子
- …健康

沿革・地域の自然や風土

本校は、昭和四十九年に長良小学校から分離独立し四十一年目を迎えた学校です。教育に深い理解と熱意をもつ地域の人々、児童の保護者、本校に集う教師集団の英知そして、活動的な児童らによって、本校の新しい伝統が築かれています。

本校正門を入った正面に高さ二メートルの「啐啄」の二文字が刻まれた石碑が建っています。鶏が卵を孵化させる時、卵中

の雛が殻を破って出るために内からつつくのを啐と言い、雌鶏が外からつつき破るのを啄と言います。啐啄は、この両者が同時に行われることから、師弟の機縁相熟するたとえです。学校の教育目標に掲げる自主、連帯、創造、実践行動、健康を柱とした調和のとれた児童像は、啐啄の碑の意図するところを組み込みつつ、本校教育の確かさとなって結果するものと考えます。

校区は、北にそびえる雄峰百々ヶ峰、南に流れる清流長良川にはさまれた平地であり、金華山を仰ぐ風光明媚な地域です。このあたりは、縄文遺跡をはじめ岐阜古墳群の一角として、多くの古墳が点在しています。また、雄総護国寺の文化財が物語るように、古くから文化の開かれた地域です。現在、真福寺付近では稲作、古津、中川原、志段見、雄総では果樹栽培が盛んに行われています。特に、果樹栽培地域ではいちじく、ぶどうが多く生産され、それらの一部は「いちご狩り」「ぶどう狩り」として観光にあてられています。校区には、東長良中学校、長良高等学校、岐山高等学校、長良特別支援学校があり、岐阜市有数の文教地区でもあります。

1 学校のたからもの 長良東小型教科担任制

本校では、昨年度より高学年を中心とした教科の専門性を生かした指導（教科担任制）に取り組んでいます。それぞれの教員が専門とする教科の教材研究の成果を発揮することで、教科に対する児童の学習意欲を喚起したり、学ぶ意欲を実感させたりすることができそうです。また、複数の教員が学年全体の児童を指導していくことで、児童一人を多面的に捉え、よさや可能性を引き出すことができます。

今年度は、教科担任制による教科の種類を増やしたり、実施学年を中学年にまで広げたりしてさらなる充実を図っています。これにより、児童のより一層の学力の向上を目指します。

2 学校のたからもの はぐるま活動

本校では、児童会活動を「はぐるま」と呼びます。全校を六年生と五年生以下に分け、六年生の力をはぐるまの輪を動かす原動力とすることにより、全校が仲良しになることを目指しています。

六年生と五年生以下の児童

はぐるま活動に取り組む児童▶



▲「長良」に生きる人とのふれあい



▲1年生をむかえる会



▲第13次杭州市青少年友好団来校



3 学校のたからもの 東っ子タイム

平成二十六年年度のはぐるまスローガンは、『友たちいっばい はじける笑顔 やさしさあふれる東っ子』です。週一回の「朝はぐるま」の活動や、週一回の昼休みに行われる「ふれあいあそび」、「運動会」や「はぐるまスポーツフェスタ」といった行事では、スローガンを意識した活動を進めていきます。

本校の総合的な学習の時間を「東っ子タイム」と言います。長良に生きる人・自然・文化及び外国の人々やそのくらしに関心をもつ課題をつくり、身に付けた学びをもとに解決していくこととする態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにします。

中学年では、「長良」に生きる人とかかわることを通して、くらしへの願いや知恵を学びとっていく子、願いや課題をもって、生き生きと地域の人とかかわる子が育っています。

高学年では、明確な課題をもとに地域の歴史や人々に働きかけ、積極的に問題解決する子、様々な人の営みから自分の生き方を求めていく子が育っています。

4 学校のたからもの 国際友好学校



▲第40回 運動会 応援合戦



▶教科担任制の授業で学習に励む児童▲



【かわべちょうりつかわべにししょうがっこう】

川辺町立川辺西小学校

●住所 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺125
●TEL (0574)53-2038
●FAX (0574)53-3849
●メール c30924@mx.gifu-net.ed.jp
●児童数 265名



校歌



川辺西小学校校歌

作詞 柏木亀蔵
作曲 伊藤英治

一、春は霞の幕引山
秋は月澄む飛驒の流れ
清き川辺と名に呼ばれて
永久に榮行く我等が里

二、真心こめて放つ矢には
巖も通す力あるを
身のため世のため国のためと
たゆまず進めやよ我が友



▲見守り隊のみなさんによる交通安全教室

「ブレーメンのおはなし隊」さんは平成十七年に結成、毎月かかさず全学年に読み聞かせをしてくださいます。日本の昔話を中心に、川辺町の昔話を、手作り紙芝居も使いながら楽しく読み聞かせをやってくださいます。川辺の昔話を聞くことにより、川辺町の歴史も知ることにになり、子どもたちにとっては石二鳥の楽しいひとときとなっています。

子どもたちはどちらの皆さんともすっかりおなじみで、「あ、ブレーメンさんだ！おはようございます」

「うごはん」の取り組み
現代は、「食育」について小学校でも積極的に取り組む時代になり、子どもの頃からの「食」についての考え方が子どもの成長には大切な要素だと考えられています。そのため本校では、夏休みの課題の一つとして子どもたちが料理に挑戦する「うちごはん」をPTAの生活委員会が中心となって実施しています。当初、ごく少人数の活動でしたが、平成二十四年度から本格的に先生を含む全校で取り組み始めました。



▲「ぐりとぐら」のみなさんの読み聞かせ



▲児童会が中心となつて行うあいさつ運動

学校の教育目標 「よく考え 仲間とともに やりぬく子」—考えて話せる 仲間を思いやる 進んで運動する—

学校の沿革や地域の自然や風土

心落ち着き、夢ふくらむ元氣な川辺町

川辺町は、美濃加茂市・八百津町・七宗町に隣接し、中央を飛驒川が南北に流れる山紫水明の町です。市街地近くに飛驒川のダム湖があります。その周辺一帯の散策道や公園などを、多くの人が好んで活用しています。また、ダム湖はボート競技に絶好の条件を備えており、国内外の愛好家からその名を知られています。

本校は、その川辺町の中心地にあります。そして、旧武家屋敷跡に校舎が建てられています。樹齢四百年を越える「栴檀（せんだん）」の木が植えられている川辺西小学校は、長い歴史と伝統のある小学校です。

学校のたからもの

「よく考え 仲間とともに やりぬく子」
—考えて話せる 仲間を思いやる 進んで運動する—

(1) 諸団体・個人との連携

①見守り隊（二百人を越える安全パトロール隊員）のみなさん

んが、朝夕の通学の付き添い、見守りを行ってくださっています。

②一年を通して、一つの読み聞かせサークルのみなさんが、本校を拠点に活動してくださっています。年間二十五回を越え、支援にお越しくださっています。文部科学大臣表彰を受賞した団体もあります。

③元PTA会員が中心になって組織された学校支援ボランティア「せんだんの会」のみなさんが、校舎内外の安全点検や修繕工事などを無償で行ってくださっています。

④学校人材バンクに登録してくださっている個人のみなさんや、民生児童委員さん、在学する児童の祖父母のみなさんが、様々な支援を行ってくださっています。「野菜先生」、「しいたけ先生」「伝承遊びの先生」など。

⑤町文化協会・スポーツ少年団・青少年育成会議・食改協・町内保育園・中学校・行政機関等との連携が図られています。

(2) 自他を大切にする教育活動

心を開いて歌うことの楽しさとともに、豊かな感性と感動する心を育むために、生命を大切にする学習や命を守る訓練な

どを通して、自他の生命を大切にする意識を育てています。また、自分で考えたり友達と相談したりして、考える機会を多く設けています。

特に全校集会・児童集会は児童が堂に会し、質の高い自治的な活動が仕組まれています。自主性を育て大切にし、生活に潤いとゆとりを持ち、自他を大切に実践を図る活動を子どもたちも楽しみにしています。特に毎月替わる委員会活動では、寸劇や拡大掲示物などを用い工夫された児童会活動が進められています。また、「全校フェスティバル」（異学年集団による文化的な活動）や、「異学年全校あそび」なども、とても楽しい児童会活動です。地域住民のみなさんによる人権意識高揚の集会や防災、キャリア教育について考える場もあります。

また、「花と絵と歌声」のある学校で、絵画や塑像作品はとても個性豊かで質も高いです。

(3) 特色あるPTA活動

①本校の読み聞かせ活動の中心は、地域の女性！

川辺西小学校の宝物、それは地域の方々の力です。川辺西小学校は、読書活動に力を注いでいますが、それを強力にサポートしてくださるのが、町内の読



▲全校フェスティバルの様子



▲「うちごはん」おいしい料理のできあがり！



◀川辺ダム湖で行うカヌー体験



【たじみしりつこいずみしょうがっこう】

多治見市立小泉小学校

●住所 〒507-0073 多治見市小泉町7丁目90番地
●TEL (0572)27-2624
●FAX (0572)20-0120
●メール s-koizms@city.tajimi.lg.jp
●児童数 682名(H26.4.1現在)



校歌



小泉小学校校歌

作詞 西村敏行
作曲 都築 甲

一、土の香かおる和風に
くわと共し人々の
誠をかたく胸に秘め
望み果てなき兄弟

二、永久の平和を願いつ、
基ゆるがぬ高社
朝な夕な仰ぎ見て
誓いもかたし姉妹

三、新しき明日信じて、
われらは歌う肩くみて
共に進まむ小泉の
わが学び舎に幸あれよ



◀無言清掃
床にひざをついて黙々と磨きます

学校の教育目標 なかよく かしく たくましく

沿革地域の自然や風土

本校は、明治六年に普賢寺に「攻堅学校」として創立。昭和二十二年に「多治見市立小泉小学校」と改称され、昭和二十七年より現在の場所に移転しました。今年度で開校百四十二年目を迎える伝統と歴史のある学校です。地域は、もともと豊かな緑に囲まれた農村地帯でしたが、宅地開発が進んできました。それでも、「久々利古道」「馬頭観音」「はつき様」など、いくつもの史跡が大切に保存され、子どもたちの地域学習に役立っています。また、子どもたちの登下校を見守ってくださる「小泉パトロール隊」、読み聞かせや図書室の環境整備をしてくださる「エルマーの会」など、学校や子どもたちを支えてくださる意識の高い地域でもあります。

学校の教育目標

学校の教育目標「なかよく かしく たくましく」の具現に向けて、「集中学習」「無言清掃」「安全歩行」の三本柱を大切にしています。また、学級や個人の「じまんづくり」を通して、一人一人の自尊感情を高める取組を行っています。

学校のたからもの①

「じまんづくり」で誇りづくり

子どもたちの自己肯定感や自尊感情を高めるために、学級や個人の「じまんづくり」に取り組んでいます。昨年度は、「給食残量〇四万月」や「多治見市読み切り図書全員読破」「名札全員着用一カ月」など、全校で百十七の学級の「じまん」が生まれました。この取組の中で大切にしていることは、問題や困難にぶつかったとき、子どもたちが自分たちで考え話し合って解決の方法を生み出すこと、また、リーダーを中心にお互いが関わり合い支え合って、学級みんなで目標の達成に向かっていくことです。

「じまん」が生まれると代表の児童が校長室を訪れ、校長先生に報告します。すると、校長先生はその学級を訪問され、「じまんの証」を手渡されます。そのときの、子どもたちの誇らしげな表情は実にすばらしいものです。子どもたちが仲間と力を合わせながら、学級や個人の「じまん」をこれからも増やしていくてくれることを願っています。

学校のたからもの②

ボランティア活動

児童会では以前からペットボトルのエコキャップを回収し、発展途上国の子どもたちにポリオワクチンを送る活動に取り組んできました。また、東日本大震災の折には、同じ名前の宮城県気仙沼市立小泉小学校へ六百冊の図書を寄贈したこともあり、昨年度からは、より地域に密着した活動を行うことで、ボランティアを募って種から花を育て、お世話になっている地域の方々や施設に配付する、「花さかせ隊」の活動を始めました。前期にはマリィーゴルドと百日草、後期にはパンジーとピオラ、ノースポールを丹誠込めて育てました。活動は主に二十分休みと昼休みですが、一年生から六年生まで、たくさんの児童が加わって活動しています。また、「家庭ボランティア」にも多くの児童、家族が取り組み、昨年度は前期に三百七十六名、後期に二百八十五名の児童がチャレンジカードを提出しました。特に、今年度はPTA活動の重点にボランティアが加わり、「こいずみクリン大作戦(奉仕作業)」や給食エプロン修繕など、親子で参加できるボランティア

学校のたからもの④

無言清掃

築四十年を超えた古い校舎ですが、教室の床や廊下(ベランダ)、階段などいつもピカピカに磨かれています。

昼休みの終わりを知らせる音楽が流れると、グラウンドで遊んでいた子どもたちは一斉に走って自分の掃除場所へ向かいます。道員を準備し列に並んで全校そろって始まるあいさつをし、掃除に取りかかります。ひざを床について繰り返し拭いたり、隅々まで丁寧にほうきで拭いたり、一言もしゃべらず黙々と掃除に没頭しています。全校がシーンと静まりかえる瞬間です。最初はべちゃくちゃとしゃべってしまつ一年生も、ペア学級による掃除交流などを通して、秋の運動会頃には本当に落ち着いて掃除ができるようになります。

学校のたからもの⑤

地域から学ぶ

本校には、毎月一回、子どもたちへの読み聞かせや図書室の本の修繕、環境整備を行っていた



▲「エルマーの会」による読み聞かせ

いている「エルマーの会」というボランティア団体があります。二十分休みの読み聞かせには、たくさんの児童が集まり、お話を楽しんでいます。また、「多治見語りの会」の皆さんにも、全学級で読み聞かせを行っていたりしています。

三年生の総合的な学習の時間には、「大原を語る会」の皆さんから地域の史跡について学んだり、民生委員の方々から昔遊びを教えていただいたり縄跳び体験をさせていただいたりしています。

「小泉パトロール隊」の皆さんも含めて、小泉小の子どもたちは地域の多くの方々に見守られ支えられて、明るくのびのびと学ば生活しています。



▲全員の顔が見える場所へ移動して意見を発表します



◀3年生が民生委員さんから縄跳びを学びます



「花さかせ隊」のボランティア活動



▲校長先生から「じまんの証」を渡していただきます



【かかみがはらしりついなばちゅうがっこう】

各務原市立稲羽中学校

- 住所 〒504-0927 各務原市上戸町5丁目40番地
- TEL (058)383-3356
- FAX (058)383-3357
- URL www.mirai.ne.jp/inahachu
- メール inahachu@he.mirai.ne.jp
- 生徒数 337名(H26.5.現在)



稲羽中学校校歌

作詞 内木 実
作曲 各務虎雄

一、流れてつきぬ 木曾川の
水清らかに 澄みわたる
あしたゆうべに くもりなく
みがく知徳の 明らかに
人のかがみと 生い立たん
稲羽中学 稲羽中学
われらの光

二、伝えも古き 各務野の
日は高らかに 照りわたる
ひとつ希望に むつみつつ
とわにかがやく 国の幸
ひらく力を はぐくまん
稲羽中学 稲羽中学
われらの光

学校の教育目標 志を立て 夢の実現めざして 粘り強く挑戦する生徒

学校の沿革・地域の様子

昭和二十二年に新制中学校として開校した稲葉郡・羽島郡学校組合立共和中学校と稲葉郡前宮村立前宮中学校が、昭和三十三年十月一日に合併し、稲羽町立稲羽中学校となりました。そして、昭和三十八年四月に稲葉郡四町合併により各務原市立稲羽中学校となり、現在に至っています。

校区には、稲羽東小学校と稲羽西小学校があり、木曾川と航空自衛隊岐阜基地の間にある静かな田園地帯に位置しています。昔ながらの三世帯家族の割合が高く、保護者は、学校教育に理解を示し、学校との連携にも協力的です。地域の自治会や各種青少年育成組織も、市民運動会、市民清掃、地域伝統行事などで中学生に役割を持たせ、地域社会人として育つように地域ぐるみで教育を推進しています。

昨年、各務原大橋が完成して川島地区とつながり、愛知県への新たな交通ルートとなったため、急激に交通量が増えています。

学校の教育目標

本校では、教育目標「志を立て 夢の実現めざして 粘り強く挑戦する生徒」の育成をめざし、四年前から『Cool(クール) 稲

羽』を合言葉に、「かっこいい中学生『Cool(クール) Student』」になろうと取り組むが進められています。

「かっこいい」とは、見かけの「かっこよさ」ではありません。学習に真剣に立ち向かう姿、部活動で汗や泥にまみれる姿など、努力やひたむきに豊かな人間性を感じ、私たちは心を動かされ「かっこいい」と感じます。毎日の生活で、真の「かっこよさ」を身につけていくことが本物の力となり、夢の実現につながっていきます。全校生徒三百三十七名と教職員が心を一つにして、知恵と汗を出し合い、互いに高まることを願う「Cool Inaba Cool Students」をめざして取り組んでいます。

学校のたからもの①

主体的な生徒会活動

「昨年度まで、『挨拶のCS』服装のCS」などを職員が認定し、職員室前の廊下に認定者の写真が掲示されてきました。(CS= Cool Student)
しかし、昨年度からは、生徒会が中心となって、当たり前のことが当たり前にできる生徒、仲間を心から大切にできる生徒をめざし、自分たちの手で Cool

学校のたからもの③

合唱への取り組み

毎年十二月に行われる「全校合唱発表会」は、仲間との絆が合唱という形で表現され、学級や学年の絆、そして稲羽中学校の生徒としての自信と誇りを確かめあつ活動になっています。

(参観者からのアンケートより)

帰ってきた子どもたちの姿から、いい仲間、先生に恵まれて、楽しい中学校生活を送っているんだなあと感じました。この一年間、新しい仲間をつくりあげたクラスの力を発表できたなあと思いました。いろんな思いをもち、それぞれ育ってきた道も違うけど、中学生の仲間が合唱をこんなに生懸命歌い、「1」になるすばらしさに毎年感動しています。色々な学校行事がありますが、稲羽中学校の姿を見せる、分かつてもらえらるのが合唱発表会のような気がします。職員合唱で自然に起きた生徒の手拍子にも、先生と生徒がつながっているすばらしい学校だと嬉しく、感動しました。私も元気をもらい、また明日から仕事、家事、そしてこんなステキな中学生と頑張っていきたいと思いました。稲中生、ありがと。

Student (かっこいい生徒) を認定するようになりました。また、CSの認定だけでなく、CCS(Class Cool Students)と名づけて、学級の取り組みも認定し表彰していく仕組みができました。

その結果、どの学級も授業・時間・あいさつ・身なり・掃除のCS・CCSをめざして、議会や委員会から提案される毎月のキャンペーン活動に精一杯取り組み、ますます自治力・自浄力が向上しています。

また、人権意識の向上へも関心があり、平成二十四年度に生徒会が中心となって制定した『稲中人権宣言』が形骸化しないよう、定期的に人権アンケートをとり、「いじめ ゼロ」をめざして「人権の木」や「人権の花」この活動に取り組んでいます。

学校のたからもの②

学び合いを生かした授業

本校では、授業開始時刻を知らせるチャイムが鳴りません。授業開始一分前になると、リーダーや学習班の生徒たちが、「席に着いて」「学習の準備をして」と呼びかけています。また、多くの生徒たちが自分で時計を見て、授業開始時刻前に着席できるようになっています。

稲中人権宣言▶



▲各務原市生徒議会



▲合唱発表会



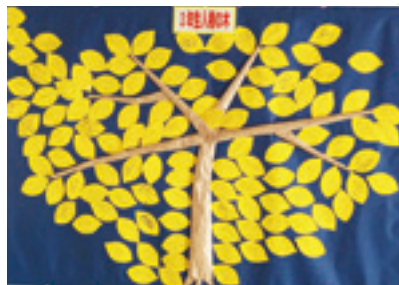
▲ろうか掃除



▲トイレ掃除



▲学び合い



▲人権の木

わが子のあゆみ

2014.7 No.433 初夏号

表紙 高山市立朝日小学校

学校のたからもの 1

岐阜市立長良東小学校／川辺町立川辺西小学校／多治見市立小泉小学校／各務原市立稲羽中学校

わが家の宝物 高山市立宮小学校PTA会長 谷本 勇人 9

特集 親と子どもの「あんしんネット」 11

家庭教育応援団！⑪ 17

シリーズ「療育」⑩ 岐阜県立大垣特別支援学校 19

お弁当の日 関市立倉知小学校PTA 21

保健室ノート 岐阜市立長良小学校養護教諭 亀山智加枝 23

私の先生 各務原市立那加第一小学校教諭 奥野泰成 25

子育て半生記 輪之内町立輪之内中学校PTA会長 林日出雄 27

頑張る父親！おやじニュース【最終回】 29

多治見市立笠原中学校PTA
土岐市立泉中学校PTA
瑞浪市立土岐小学校PTA
中津川市立付知南小学校PTA

私が出会った1冊の本【続17】 31

中津川市立加子母小・中学校PTA会長 武田省司
岐阜市立加納小学校PTA前年度副会長 垣内裕子

わが家のルール 33

岐阜市立岩野田小学校PTA会長 柳澤 亮
加茂郡七宗町立神淵中学校PTA 奥村雅人

子の思い・親の願い・教育の窓 35

子の思い
岐阜市立岩野田北小学校 3年 かとうれい夏
関市立武儀西小学校 5年 川島海結
高山市立中山中学校 3年 金沢実玖

親の願い
瑞浪市立稲津小学校平成25年度PTA会長 西尾治徳
安八町立登龍中学校PTA 忌部久美子

教育の窓
羽島郡岐南町立北小学校 教諭 横井美樹
可児郡御嵩町立向陽中学校 教頭 塚本 修

親子ではてな 40
インフォメーション 41
お試しクッキング 岐阜県学校栄養士会 42
枝豆と長芋のポタージュスープ

ふるさとの伝承

美濃市立美濃小学校 43

きらり！キッズ！

東白川村立東白川小学校 45

夢中！熱中！我らが部活

関市立小金田中学校 47

私たちのPTA

北方町立北方南小学校PTA 49



わが家の宝物

高山市立宮小学校PTA会長
谷本 勇人



四年前、知人宅で仔犬が六匹生まれたという噂を聞き、家族揃って見に行った。小さくて可愛らしい仔犬を見るなり、こども達はどうしても飼いたいと言いい、私たち夫婦もこどもの頃に犬を飼っていて、元来犬好きということもあり、その日のうちに二匹を譲り受けることになった。

名前を決めるのにあれこれ悩んだが、最終的に長女が「ラック」と命名し、家族の二員となった。

当時まだ一年生だった次女は、やんちゃ坊主のラックに大切にしていたぬいぐるみを壊されたり、手や足を甘噛みされては、度々泣いていた。

ぬいぐるみやおもちゃで遊ぶのとは違い、すべてが自分の思い通りにはならないことを経験し、また毎日のエサやりや散歩、トイレの世話など、生き物を飼うということの大変さを学んだと思う。

散歩中にヘビと睨み合って鼻を噛まれ怪我をしたり、時には家から脱走し家族を心配させたりすることもあるけど、ラックは私たち家族にたくさんのお話と笑顔を提供してくれる愉快な「わが家の宝物」です。

親と子どもの「あんしんネット」

日常のニュースや天気予報、旅行やショッピングから音楽・映像・ゲームetc.:。友達づくりやメール交換などいろいろな利用が出来るインターネット。毎日持ち歩いている携帯電話やスマートフォン、家庭にあるパソコンや子どもが使う一部のゲーム機からでも、手軽に利用できるインターネット。いまや私たちの生活は、インターネット抜きには考えられないほどになりました。学校教育にもインターネットが取り入れられて、子ども達には、将来とも欠かせないものになっています

携帯・スマホ等の安全対策実施 愛知・刈谷の全小中学校、関市でも

今年四月から、愛知県刈谷市の小中学校（二十一校）では、児童生徒に対して「夜九時以降、携帯電話やスマートフォンを使わせない」ことを申し合わせました。

新聞報道によると、刈谷市教育委員会、市内小中学校、警察、保護者などをつくる「刈谷市児童生徒愛護会」が発案し、呼びかけたもので、無料通信アプリLINE（ライン）などを使ったトラブルやいじめ、生活習慣の乱れを回避するための措置という。内容は

- 一、必要のないスマホや携帯電話を持たせない。
 - 二、契約時には親子で使用に関する約束を決め、有害サイトの閲覧を制限する「フィルタリング」のサービスを受ける。
 - 三、午後九時以降は親が預かる。
- というもので、愛護会は「勉強や就寝の時間を考慮しつつ、厳しすぎないよう午後九時に設定した」と説明している。（産経新聞）
- 一方、関市でも同様の内容で、市PTA連合会・市青少年健全育成協議会・市小中学校校長会が検討し、7月に保護者へ協力を求める依頼文書を発送する事になっています。

十代も規制を歓迎です 「スマホより睡眠、勉強時間」

インターネットでその時々話題についての意見を聞く「中日ボイス」。「子どもを対象にした携帯電話の自宅での使用規制」への賛否と「携帯電話、スマートフォンの使い方」を質問。一万一千五百三十三人が回答しました。

使用規制に賛成は85・4%。すべての年代で賛成が反対を上回り、二十代が79・8%、八十代が89・3%と年齢が上がるにつれて賛成が増えました。実際に規制を受ける十代も68・0%が賛成。自宅での過ごし方は自由だとの考えもあるが、「睡眠時間と勉強時間を確保できる」（愛知県、十七歳男性）と歓迎する声が多くありました。

若者にすっかり浸透したのが無料通信アプリ「LINE（ライン）」。

いじめや児童買春の道具にも使われるとあって、刈谷市の規制はこうしたトラブルから子どもを守る狙いがあります。友人からのメッセージに素早く返答しないと「冷たい」と言われることもあるといい、「規制を理由に友人によるラインの柵から抜け出せる」（岐阜県、十七歳学生女性）など、友人との付き合い方に悩む若者の姿が浮かびました。

親や祖父母の世代からは「親が言ったところでフンという感じ。違ったところから言われると少し違う対応が出てくるのでは」（愛知県、四十八歳主婦）と期待する声がありました。

逆に、規制に反対とした人は14・6%。学校からの要請ではなく「家庭内でやるべきことだ」（長野県、六十二歳会社員男性）、携帯やスマホの「使い方を教えるのも教育の一つ」（滋賀県、二十九歳会社員男性）などと規制そのものに疑問の声が聞かれました。

全世代を対象に聞いた「携帯やスマホの使い方」（複数回答）は、男性のトップが電話、女性はメールでした。（中日新聞二〇一四年四月三日より）

低いフィルタリング利用率 ～県PTAの実態調査から～

岐阜県PTA連合会では、携帯電話やゲーム機、インターネットの普及を背景に、数年前から子どもを守る立場から様々な活動が続けられました。（県PTAホームページ「ケータイ問題への取り組み」参照。http://www.gptacom）

教育環境委員会は昨年度、小六と中二の子どもとその保護者四千二百三十四世帯を対象に「家庭内における情報通信機器アンケート」を実施。どのような機器が家庭にあるか、利用の仕方、トラブルの経験、フィルタの実施などについて調査しました。

それによると、約九割の家庭にパソコンがあり、子ども達はそのうちの約七割がパソコンを使い、ほとんどがインターネットを利用している。利用の仕方ではYouTube等の動画の閲覧が非常に多く（小六73・5%、中二82・7%）、オンラインゲーム（小六21・1%、中二23・0%）やネットショッピングの利用

（小六12・8%、中二23・7%）が想像以上に多い結果となっています。このような利用の仕方を「約80%の保護者が把握している、ある程度把握している」と回答しています。

一日のインターネット利用時間は、一時間以内が小六59・9%、中二36・6%であるのに対し、中二では一〜二時間が25・5%、三時間以上20・9%と長時間にわたっています。

メールやLINE、掲示板などで友達とトラブルになったことは小六6・5%、中二18・4%と決して低い数字ではありません。

パソコン・スマホへのフィルタリングについて、情報機器を持っている保護者のうち、利用している《小六32・0% 中二36・7%》、知っているが利用していない《小六48・4% 中二47・5%》、知らない《小六19・5% 中二15・8%》と、七割近い子ども達が、危険にさらされている実態が明らかになりました。総務省の全国調査（携帯電話とパソコンのフィルタリング平均利用率）小学生50・5%、中学生42・1%の全国平均からも大きな開きがあることが分かりました。

調査を実施した教育環境委員会では、「今回のアンケートは現状把握調査的な内容であり、今後この結果をどのようにまとめ、何を重点にして伝えようとするかがとても重要だと思います。パソコン・インターネット・スマホ・タブレットなど様々な通信端末情報機器が発売され、それを使いこなせないと仕事すらできなくなる時代がくるかもしれません。当然それらの機器は生活に欠かせない存在になっていきます。要は使用方法を正しく理解し扱えばいいのです。」

子どものための、保護者の義務

ところが、使用方法を誤ると、普段の日常生活からマナーや常識が逸脱されてしまうことや往々にしておかしくなってしまうケースがすでに起きているのも事実です。

本来、人間が持っている感性や思考・思いやり・感謝の気持ち・謙虚さなどが希薄になりつつある世の中ですが、このアンケート結果を基に、今一度現状をよく知ってもらい、便利なツール・物としてとらえ、それらに振り回されない知識を身に付けてほしいと思います。子どもたちを包む教育環境の改善は、まずは家庭からです。

家庭を築き、子どもを授かった保護者である私たちが、まずその姿を見せていかねばなりません。」とまとめています。

このような状況下で、内閣府・総務省・経済産業省・内閣官房IT総合戦略室・警察庁・消費者庁・法務省及び文部科学省では、今年度の初めに「春の安心ネット・新学期一斉行動」を呼びかけました。

特に、スマートフォン購入時における対応（青少年インターネット環境整備法における保護者の義務とフィルタリングの利用）、家庭における利用のルール作り、学校や地域における取り組みについてその具体例を示しました。次に、その啓発資料「お子様が安全に安心してインターネットを利用するために保護者ができること」を紹介します。

3 保護者ができる3つのポイント

(1) 適切にインターネットを利用させましょう。

- **ネットデビュー** ～初めてインターネットを利用させる場合
お子様と一緒にインターネットを利用して、インターネットを適切に利用するための知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身に付けさせましょう。
- **新しい機器をお子様にしたせる前に**
お子様の成長に合わせて、インターネットを利用させることが大切です。お子様に機器を持たせる前に、まず、何のために必要なのか、どのように使うのか、目的やルールを話し合ひましょう。

- **持たせ始めが肝心**
トラブルに遭っていないか、過度の長時間利用になっていないかなど、こまめに利用状況を確認しましょう。
お子様専用の機器として持たせる場合も、保護者が買って使わせているという意識付けをすることも有効な方法の1つです。保護者の見守りが必要な機器であることを、最初にしっかり伝えましょう。

- **少しずつ利用できる範囲を広げる**
お子様がどの程度インターネットを使いこなす知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身に付けているかを見極めましょう。そして、その成長に合わせて、持たせる機器やフィルタリングの設定などを見直し、インターネットを利用させる範囲やサービスを広げていきましょう。

単なるプレゼントやご褒美で、安易に与えてしまうのではなく、目的を明確にしましょう。また、機器を持たせる前に、フィルタリングやペアレンタルコントロール機能を設定しましょう。例えば、お子様に機器を渡す際に、事前に設定した制限事項などを使用することも有効な手段の一つです。

モバイル端末は、保護者の目が行き届きにくくなるため、お子様の成長に合わせて、使用させましょう。

保護者が使っているモバイル端末はすべての情報が取得可能です。そのまま貸与したり、使わなくなったモバイル端末を持たせる場合には、お子様の利用環境に応じて、インターネット接続機能を制限し、自由に決済できないようパスワード管理をしましょう。
また、アドレス帳などの保護者の個人情報も、必要に応じて削除するなど、適切に管理しましょう。

(2) 家庭のルールをお子様と一緒に作りましょう。

- **ご家庭の利用状況に合わせて、お子様と一緒にルールを作りましょう。** ☒ チェックを入れて確認してみましょう。
☐ お子様が使おうとしているサービスと一緒に見てみましょう。
一緒に見ることで、懸念されるリスクについて確認することができます。
- **お子様と話し合ってルールを作りましょう。**
なぜルールが必要なのかを、お子様が理解することが大切です。ルールを一方向的に押し付けるのではなく、インターネットを使う目的をはっきりさせましょう。
- **お子様の利用状況を確認するルールを作りましょう。**
お子様の利用履歴を勝手にチェックするのではなく、お子様と一緒に確認し、問題がないか話し合ひましょう。
- **ルール違反があった場合、次にどうすれば違反しないかお子様と一緒に考えましょう。**
一時利用禁止など、ルール違反があった場合のルールを事前に決めておくことで、ルールを守る責任感が生まれます。次に違反しないように話し合ひましょう。
- **トラブルのときはすぐに保護者に相談するよう話しておきましょう。**
お子様から相談を受けたときに、慌てないように、事前に対応方法や相談窓口を確認しておきましょう。
友達の保護者と連携しましょう。
コミュニケーションアプリなど、グループ内でのメッセージのやり取りが増えたことで、子ども達同士のトラブルが発生しています。保護者同士で情報交換し、子ども達同士のルールを作るなど、学校、学級、地域で連携して、お子様を見守る取組が大切です。
- **家庭のルールを作る際の心構えを確認しましょう。**
- お子様と一緒に、きちんと守れるルールを作りましょう。
- ルール違反が明確になるルールを作りましょう。
- ルールを乱暴しないで適用しないようにしましょう。

● ご家庭のルールの具体例

- 困ったときはすぐに相談する。
- 友達にメールやメッセージのやり取りを強要しない。
- インターネットを使わない子を仲間はずれにしない。
- 利用する場所や時間帯を決める。
- パスワードは保護者が管理する。
- お金がかかる場合は事前に相談する。
- 名前、姓写真、学校名などは書き込まない。
- 知らない人のメールに返信しない。
- ルールを破ったら、一時利用禁止とする。



- **ソーシャルメディアの利用について**
ソーシャルメディアは、インターネットにつながる人々がコミュニケーションができる「公共の場所」です。また、一度公開した情報はインターネット上に残り、広がる可能性があります。
東社会でやっていけないことは、インターネット上でもやってはいけません。お子様には、情報モラルなどを身につけて、ルールやマナーを守って利用させましょう。
- 個人情報を書き込まない。
- 他人を誹謗中傷する書き込みをしない。
- 不確かな情報に注意する。など

(3) お子様にしたせる機器にはフィルタリングなどを設定しましょう。

A 携帯電話を持たせる場合



- **購入のときに18歳未満の青少年に使用させることを伝える**
青少年インターネット環境整備法第17条第2項において、保護者は18歳未満の青少年に使用させるために携帯電話・スマートフォンを購入する場合は、携帯電話会社にその旨を伝える義務があります。

携帯電話会社は18歳未満の青少年が使用する場合には、保護者から不要との申出がない限り、フィルタリングサービスを提供する義務があります。

お子様が安全に安心してインターネットを利用するために保護者ができること



1 保護者の理解と見守りが、お子様を守ります。

インターネットは、世界中の様々な情報を調べることができる便利なものです。近年は、学校教育でも利用され、青少年にとって欠かせない存在となっています。
しかし、インターネットの利用によって、不適切な表現や画像など、青少年の健全な成長に悪影響を与える情報にも、触れる可能性があります。コミュニティサイトの利用などにより、友達同士のトラブルや事件・事故に巻き込まれることもあります。例えば、いたずらのつもりでも、悪意に悪用されたり、犯罪の被害者になることもあり、行為によっては罰せられる場合もあります。
このようなリスクを減らして、安全・安心なインターネット利用環境を実現するため、「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律（青少年インターネット環境整備法）」が施行されています。
青少年がインターネットを適切に利用できるようになるため、保護者がインターネットの特徴を理解し、青少年を見守ることが大切です。

● 保護者ができる3つのポイント

- (1) 適切にインターネットを利用させる
- (2) 家庭のルールを作る
- (3) フィルタリングなどを設定する

お子様の将来のために

インターネットを「使いこなす力」は、これからの社会で必要不可欠です。交通安全ルールと同じように、自分自身を守りながら、賢く有効に使わせましょう。
そのためには、お子様の成長に合わせて、インターネットに関する知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身に付けさせることが大切です。

◎ お子様はインターネットを利用させる際の保護者の責務が規定されています。

青少年インターネット環境整備法第6条において、保護者は、青少年のインターネット利用の状況を適切に把握するとともに、利用を適切に管理し、適切に活用する能力の習得の促進に努めることとされています。お子様の将来のため、保護者の役割をこのリーフレットで再確認してみましょう。

2 お子様がどんな使い方をしているかご存知ですか？

- ☐ お子様にどのような機器を持たせていますか？ どのようにインターネットを利用させていますか？
- ☐ お子様がどのような場所・環境で、どのようなサービスを利用しているかご存知ですか？ 例えば、街なかの無線LAN回線（Wi-Fiなど）を利用することはありますか？
- ☐ 保護者の目が届かない場合でも、親子で話し合ってルールを決めていますか？ フィルタリングなどを設定していますか？

☒ チェックを入れて確認してみましょう。

近年、スマートフォンをはじめ、インターネットに接続できる機器が増えてきました。例えば、携帯音楽プレイヤーでもスマートフォンと同じようなサービスやアプリを利用できる機器があります。



- ☐ 上記のようなモバイル端末の普及により、お子様のインターネットの使い方が急激に変化しています。メール、ゲーム、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）、チャットや掲示板（特に書き込み）、交流サイト（特に知らない人）、ゲームやアプリでの課金など、保護者が気づいていない使い方をしていないですか？

□ コミュニケーションアプリの利用

無料通話やグループでのメッセージが利用できるコミュニケーションアプリが急速に普及しています。複数で利用することからトラブルも発生しています。また、見知らぬ人との出会いにつながる可能性がある「IDの取得」には注意が必要です。

□ 歩きスマホ、ながら操作

スマートフォンなど、モバイル端末が普及し、車の通る道路や駅のホームで歩きながら、自転車に乗りながら、端末を操作する人が増えています。車道や道端に集中することで視界も狭くなり、他人やモノに気づかず、大怪我をしたり、怪我をおわせたりするような事故も増えていることから注意が必要です。

□ 店舗などでの無線LAN回線（Wi-Fiなど）の利用

近年、コンビニや公共施設などで、無線LAN回線（Wi-Fiなど）を無料提供する場所が増えています。遊びに出た先で利用している可能性もありますので、無線LAN回線（Wi-Fiなど）でも安全に使えるように親子で工夫しましょう。（3-9-8を参照）

□ いわゆるネット依存

モバイル端末は、いつでもどこでもインターネットを利用できるため、意識せずに長時間利用する人が増えています。
お子様がインターネットを使わないと不安になったり、イライラしたりという様子を感じたら、悪循環に陥りやすくなります。親子のコミュニケーションを増やしなが見守りましょう。

4 チェックシートで保護者の役割を確認しましょう。

お子様が安全に安心してインターネットを利用するために保護者ができることを、もう一度確認しましょう。

- 3つのポイント** ☒ チェックを入れて確認してみましょう。
- 発達段階に応じて、
- ☐ 適切にインターネットを利用させましょう。
 - ☐ 家庭のルールをお子様と一緒に作りましょう。
 - ☐ お子様を持たせる機器にはフィルタリングなどを設定しましょう。

● お子様を見守りましょう

- ☐ 使い始めはお子様と一緒にインターネットを利用して、インターネットを適切に利用するための知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身につけさせましょう。
- ☐ 日頃のお子様の行動や判断能力などから、インターネットを「使いこなす力」がどの程度身についているのかを見極めましょう。
- ☐ お子様の成長に合わせて、持たせる機器や利用できるサービスの範囲を広げたり、インターネットを利用させる環境を段階的に整えていきましょう。
- ☐ お子様はどのようなサービスを使いたいのか話を聞いて、一緒に利用してみましょう。お子様が詳しい場合でも、見守ることが大切です。
- ☐ 保護者の心配な点を伝え、お子様自身に考えさせてみましょう。

● お子様と会話をしましょう

- ☐ お子様と顔を合わせて、普段の出来事やインターネットの使い方について会話をしましょう。
- ☐ 表情を見ながら会話をすることで、適度の利用で疲弊不足になっている、トラブルに巻き込まれて落ち込んでいるなど、お子様の「サイン」を見逃すことが大切です。

● 最新のニュースや、ソーシャルメディアの利用に関するルール作りなどを確認しましょう。

安心ネットづくり促進協議会(安心協)は、企業、団体、有識者が連携して、青少年の安全安心なインターネット利用を推進する非営利団体です。
ソーシャルメディアガイドラインの作り方のポイントなど、様々なコンテンツがご覧いただけます。

スマートフォンは <http://good-net.jp/> から
安心協 検索

● 利用者情報や課金などについて

- ☐ 迷惑メールや架空請求メールなど、不明なサイトをクリックせず、すぐに相殺するように伝えましょう。
- ☐ アプリを利用する際には、プライバシーポリシーなどを読み、取得される利用者情報の範囲や目的などをよく確認しましょう。また、同意せずに、電話番号や位置情報(GPS)などの利用者情報が送信されないよう、機器やアプリのプライバシー設定を適切に変更しましょう。
- ☐ フィルタリングなどの設定に必要なパスワードは保護者が確実に管理しましょう。
- ☐ 保護者のクレジットカードを無断で使うことはできません。ゲームなどの課金について、お子様と話し合いましょう。



インターネットの安全で便利な使い方をしっかり教えることが、保護者も、スマホを上手に使って、一緒に学ぶチャンス!

● 保護者自身が気を付けること

～お子様は保護者の行動を見て、学び・育ちます。

- ☐ お子様はインターネットを「使いこなす力」を身につけるためには、お子様が安全に安心してインターネットを利用できる環境を整える必要があります。お子様とともに、保護者自身がインターネットに関する知識・技術、情報モラルやコミュニケーション能力をそれぞれ身につけることが重要です。
- ☐ お子様は保護者の行動を見て、学び・育ちます。保護者もお子様も、インターネットの適度の利用には注意しましょう。とりわけ、モバイル端末は、いつでもどこでもインターネットを利用できるため、長時間利用しがちです。適度のある使い方ができよう、ご家庭のルールを作ることが大切です。

5 小さなことでも気軽に相談しましょう。

● 機器の購入時に相談窓口を確認しましょう。

インターネット接続機器の購入時は、フィルタリングやペアレンタルコントロール機能の利用方法・設定について、相談できる窓口を確認しておきましょう。

青少年インターネット環境整備法18条において、インターネット接続事業者(プロバイダ)は利用者から、フィルタリングサービスを求められた場合は提供する義務があります。

● 専門機関に相談しましょう。

① 学校関係者やウェブサイト運営者などからインターネット上の違法・有害情報などに関する相談を受け付ける窓口です。
違法・有害情報相談センター(東京都港区:総務省)
<http://www.tthaho.jp/>

② インターネット利用者からインターネット上の違法・有害情報に関する通報を受け付ける窓口です。
インターネット・ホットラインセンター(東京都港区:警察庁)
<http://www.internethotline.jp/>

③ 保護者や子どもからの相談を電話またはメールにより受け付けている警察の窓口です。都道府県の少年相談窓口(ヤングテレホンコーナーなど)又は最寄りの警察署まで相談してください。
警察庁ホームページ ⇒ お知らせ ⇒ 各種相談などがある方 ⇒ 都道府県警察の少年相談窓口について
各都道府県の少年相談窓口
<http://www.npa.go.jp/higakya/shien/tonkumi/madoguchi.htm>

● 保護者同士で相談しましょう。

流行りのツールを使っていないと仲間はずれになるのではないかなど、保護者の心配の種は尽きません。日頃から不安に思っている事や子どもが何に悩んでいるか、またトラブル事例などを身近な保護者間で話合しましょう。
子ども連帯でルールを作らせたり、学校、学級、地域と連携することで防げるトラブルもあります。

④ 商品やサービスなど消費生活全般に関する苦情や問合せなど、消費者からの相談を専門の相談員が受け付け、公正な立場で処理にあたっている消費生活センターなどの窓口です。
消費者ホットライン 電話 0570-064-370

⑤ インターネット上の人権侵害に関する相談を受け付ける窓口です。
法務局の人権相談窓口(みんなの人権110番)
電話 0570-003-110

人権相談 検索

電話・来室 消費生活センター

インターネット・ホットラインセンター

各都道府県の少年相談窓口

B スマートフォンを持たせる場合

購入時にお子様を使用させることを申し出て、④携帯電話会社のフィルタリングを利用するとともに、⑤WEB(ブラウザ)用と⑥アプリ用の端末内のフィルタリングを利用しましょう。

WEB(ブラウザ)用のフィルタリングを導入・設定しましょう。

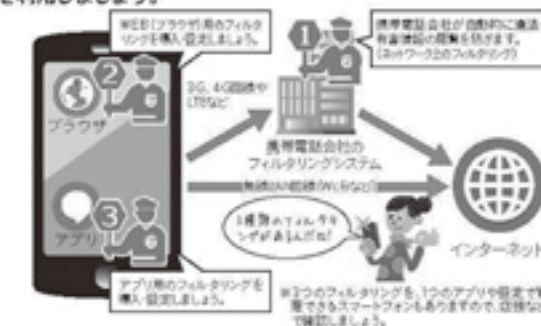
スマートフォンは、④携帯電話会社の電波(3G、4G回線やLTEなど)に加えて、⑤無線LAN回線を使ってインターネットに接続することができます。ご自宅や店舗などで無線LAN回線(Wi-Fiなど)に接続させる場合には、フィルタリングが適用されているか確認しましょう。

1 携帯電話会社の電波(3G、4G回線やLTEなど)を使ってインターネットに接続する場合

購入時に携帯電話会社のフィルタリングサービスに申し込みすることで、自動的に違法・有害情報の閲覧を防ぐことができます。(ネットワーク上のフィルタリング)

2 ご自宅や店舗などで無線LAN回線(Wi-Fiなど)を使ってインターネットに接続する場合

無線LAN回線(Wi-Fiなど)を利用する場合には、①フィルタリングが適用されない場合があります。お子様のスマートフォンにWEB(ブラウザ)用のフィルタリングアプリを設定して(端末内のフィルタリング)、違法・有害情報の閲覧を防ぎましょう。



3 アプリ用のフィルタリングを設定しましょう。

スマートフォンでは、ホームページなどを閲覧するブラウザ以外にも、様々な機能やサービスを提供するアプリがあります。アプリは、ブラウザを使わずに、直接、インターネットを利用しているため、⑤や⑥のフィルタリングが適用されない場合があります。そのため、お子様の安全で安心できる利用環境を保つには、アプリ用のフィルタリングを導入・設定する必要があります(端末内のフィルタリング)。

アプリ用のフィルタリングを導入・設定するには、機器にフィルタリングアプリを導入したり、アプリのインストールや起動を制限する機能本体の機能を活用したりする方法があります。スマートフォンによって使い方や設定が異なりますので、購入時に販売店やメーカーホームページで確認しましょう。

④「フィルタリング」と「ウイルス対策」のペアでセキュリティ対策を行いましょう。

危険なサイトに行かないようにする「フィルタリング」

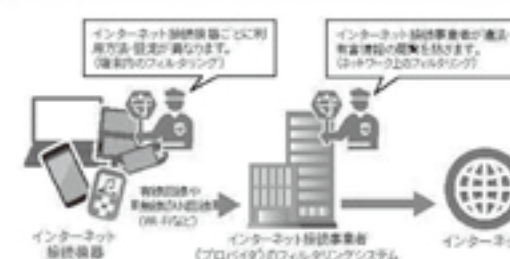
- ・個人情報や盗みなりましサイト
- ・架空請求などを目的とするサイト
- ・犯罪やトラブルを誘発する危険サイト
- ・ウイルスファイルなどを拡散するサイト
- ・健全な運営状態にあるサイト
- ・許可リストにあるサイト
- ・その他、安心な一般サイト



危険なものへの侵入を防ぐ「ウイルス対策」

- ・ウイルスなどの不正プログラム(不正アプリを含む)
- ・ウイルスなどが仕込まれたメール
- ・アドレス帳など、個人情報へのアクセス
- ・一般的なメールやメッセージ
- ・友人や知人からのメッセージ
- ・信頼できるアプリ など

C パソコン・ゲーム機・タブレット型携帯端末、携帯音楽プレイヤーを持たせる場合



● お子様を機器を持たせる前に設定する
保護者の目が届かないところで、お子様がインターネットを利用する可能性がある場合には、どんなときでもお子様の安全を守ることができるよう、フィルタリングや閲覧制限・課金制限などのペアレンタルコントロール機能を積極的に利用しましょう。

タブレット型携帯端末や携帯音楽プレイヤーの中には、インターネットに接続してスマートフォンと同じようなアプリやサービスを利用して遊ぶものもあります。お子様がどのような場所・環境で、どのようなサービスを利用しているかをご存知ですか? 無線LAN回線(Wi-Fiなど)の利用などについて、各社の公式サイトで確認しておきましょう。

⑤コミュニティサイトの利用を通じて被害を受けた青少年のうち、9割以上がフィルタリング未加入です。
平成21年以降、毎年1,000人を超える児童が青少年保護育成条例違反などの福祉犯の被害に遭っています。引き続き、保護者や関係機関・団体による青少年保護の取組が必要です。(警察庁「コミュニティサイトに起因する児童被害の事例に係る調査結果について」などより)

家庭教育学級 「家庭教育学級取材記」



◆家庭教育学級リーダー研修会より

県内各地区で「平成二十六年家庭教育学級リーダー研修会」がスタートしました。多くの保護者リーダー、小中学校・幼稚園の先生、保育所の保育士、市町村の担当者に参加していただいています。

家庭教育学級を運営していく中で直面するいろいろな悩みを克服し、「やってよかった」「参加者や子どものためになった」と思える家庭教育学級にするために、研修会でのアドバイスを幾つか紹介します。

その1 5つの型とは？

家庭教育学級の形態は、次の5つに大別しています。

学校行事参加型	就学時健診、授業参観・保育参観など、行事に合わせて開催する。
体験活動参加型	料理、親子遊びなど、実習体験を行う。
講演会型	テーマに適した講師を依頼し、専門的な話を聞く。
子育てサロン型	小グループで互いの経験や悩みなどを交流する。
在宅取組型	ノーテレビデー、早寝早起きなど、各家庭で取組を行う。

どの型にもそれぞれよさがあります。そのよさを知ってうまく組み合わせることにより、楽しく、かつ、学びのある学級になります。

その2 『子育てサロン型』は早い段階で！

小グループでの話し合いは、意見を出しやすいため、和気あいあいとした雰囲気生まれます。こうして生まれた参加者同士の信頼関係は、学びの質を高める重要な要素となります。参加者がゆったりとした気持ちで活動に取り組み、たくさん意見交流ができるようにするために、子育てサロン型の活動を早い段階で取り入れることをお勧めします。

その3 『在宅取組型』で全保護者が実践を！

講演会型の活動を取り入れることは多いでしょうが、聞いて終わりではなかなか学んだことが身に付きません。聞いて得た知識は、体験と結びつくことでより確かなものになります。講演の後に、体験活動型の実習を仕組むこともよいでしょうが、お勧めは在宅取組型の活動です。家庭教育学級の会場に出向くことができない方も参加できるのが、この型の大きな特徴です。基本的な生活習慣や家庭学習の定着に最も力を発揮するのも、この在宅取組型ですので、ぜひ、チャレンジしてみてください。

◆実践紹介 飛騨市立宮川小学校

ポイント

「学校行事参加型」「講演会型」「在宅取組型」「子育てサロン型」のよさを組み合わせ、効果を上げる！

- 実施日時 平成二十五年七月五日（金）
- 会場 各家庭・学校
- 参加者 二十八名（全保護者）
- テーマ 生活習慣づくり
- 願い 「確かな学力を定着させる」「基本的な生活習慣を身に付けさせる」ことを目的とした見守りシートを活用することで、親子で自分の家庭生活を振り返ったり、各家庭の取組を交流したりしながら、子どもに継続する力が育つことを願って企画しました。

●当日の進め方

- ◇授業参観
- ◇講話「子どもの成長と親の役割」
講師：大森智子スクールカウンセラー
- ・子どもががんばるためには心の栄養が必要。
- ・日常のことで特別何かをしなくても、自分が父母に注目されているという思いをもたせること。気が付いている、見ているというサインが必要。
- ・思春期はさなざの時代。外からは見えにくいけれど、内では成長している。
- ・反抗期になっても、心の栄養が与えられて、親子関係がしっかりできていれば大丈夫。
- ◇学級懇談会
担任の話の後、見守りシートの取組について交流会を行いました。

家庭生活見守りシート

第1条 全校みんなで守る約束	気持ちのよいあいさつをしよう
第2条 家族みんなで守る約束	
第3条 自分で守る約束	

月2回、評価日を決めて、前半・後半の評価点数を表に記載
5点：目標を十分に達成できました。
4点：2/3以上目標を達成できました。
3点：半分くらい目標を達成できました。
2点：1/3くらい目標を達成できました。
1点：ほとんど目標を達成できませんでした。

ある保護者の意見

第2条「1日1回手伝いをする」としていたが、自分から気づいて動ける子になってほしいという親の願いを話し、「1日1回、自分から手伝いをする」とした。よくやっていると思う。



▲交流会の様子

【成果】

- ・「見守りシート」という在宅取組型の活動によって、対象の親子だけに限らず、家族も一緒に育つという効果があった。
- ・子育てサロン型を取り入れた交流会では、よい結果だけでなく、修正したことや親が自分を振り返る意見等が出された。
- ・講話の内容が、親の振り返りの視点となって効果的であった。

◆お役立ち情報

家庭教育学級の進め方で困ったことがあったら……岐阜県のホームページを検索してみてください。既に掲載中の『みんなで子育て』『家庭教育マニアル』の他に、『みんなで子育てⅡ』『家庭教育プログラム（乳幼児期編）』も新たに掲載予定です。

＜みんなで子育てⅡ＞の特徴＞

- ・乳幼児期に大切にしたい十九のテーマ
- ・子育てサロン型の進行情案
- ・そのまま使えるワークシート
- ・参考となる各種資料

初めて家庭教育学級の運営に携わる方でも、戸惑わずに取り組んでいただけるよう作成しています。多くの方に活用していただけることを願っています。

編集後記

○リーダーたちの熱意

各地区で行われている「家庭教育学級リーダー研修会」では、どの会場でも、講話を聞く時や実践を交流する時に、参加者が熱心にメモをとる姿がありました。一つでも多く学んだことを持ち帰ろうという参加者の意識の高さが感じられる研修会でした。子どもは親の背中を見て育ちます。こうした姿が何よりも家庭教育です。

今年も各地区で、活発に家庭教育学級が展開されることを期待しています。



県のホームページで家庭教育学級の情報を発信中！
ぜひご覧ください！！

岐阜県 家庭教育学級

検索

平成25年度家庭教育学級の取組や家庭教育学級運営マニュアルを掲載しています。

お気軽にご相談ください！

家庭教育学級や企業内家庭教育研修等、内容から講師選定までご相談に応じます。

岐阜教育事務所	058-278-3059	(直通)
西濃教育事務所	0584-731111	(41)
美濃教育事務所	0575-334011	(437)
可茂教育事務所	0574-253111	(440)
東濃教育事務所	0573-261111	(369)
飛騨教育事務所	0577-331111	(424)



1 学校の特徴

本校は、昭和四十九年に知的障がいのある子どもたちを対象に、岐阜県立大垣養護学校として設立されました。当時は小学部と中学部のみでしたが、その後昭和五十五年に高等部が設置され、平成十九年に名称が大垣特別支援学校となり、現在に至っています。今年度は三百十二名の知的障がいのある児童生徒が学び、五台のスクールバスや自転車や公共交通機関の利用、保護者の送迎により通っています。また、寄宿舎から通っている児童生徒もいます。

本校では、「強く 明るく 仲良く」の校訓のもと、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな教育を行い、一人一人の可能性を最大限に伸ばして自立と社会参加を目指しています。

また、地域社会や近隣の小学校、中学校、高等学校との交流及び共同学習や児童生徒の居住地校交流を進めています。加えて特別支援教育のセンター的役割を担うため、積極的に地域の学校や保護者、地域の方々の相談にのったり、支援活動を行ったりしています。

2 小学部

小学部では、二・三年生は大垣市立日新小学校、四・六年生は養老町立日吉小学校と交流及び共同学習を行っています。大垣市立日新小学校との交流は三十年以上続いています。毎年、春の遠足や校外活動で日新小の校庭に行き、日新小の友達の休み時間を利用して遊んでいます。その他に、年に二回、行き来をし、本校ではミニ運動会をしたり、日新小では友達の手作りの遊びコーナーを回ったりするなどして交流を行っています。

四・六年生は、三年間日吉小の友達とペアを固定にして、お互いの学校に行き、日吉小では子ども達が考えたゲームコーナーを回ったり、本校では校内オリエンタリング、出し物を披露したりするなどして、年に二回交流を行っています。三年間同じペアで継続的に取り組むことで、六年生になると、お互いの良さを認め合いながら、自然に楽しく関わり合う姿が多く見られるようになってきます。

今後もうこうした活動を通して、人との関わりが広がり、社会性を



▲交流会の様子

育んでいけるように、進めていきたいと考えています。

3 中学部

中学部では、製品作りなどの直接体験や学校生活、行事に結びつく内容を中心とした活動を通して、身近な生活に必要な基礎的な能力や人と関わる力の育成を行いながら、より主体的に社会生活を送ることを目指して、「CHUストア」を行っています。一年生から三年生まで縦割りで作業班を編成し、先輩が後輩に教えていくという形を取っています。また後輩も自分が先輩になったときのことを考えて作業ができるよう、生徒同士協力しながら製



▲おおとばフェスタでの販売の様子

品を作っています。できあがった製品は、本校の「おおとばフェスタ」で生徒自ら販売体験をします。また、単に販売するだけでなく、その場で実際に商品を使って頂き、お客様と対話をしながらの販売を心がけています。主な製品には、入浴剤、ティッシュカバー、ランチョンマット、小物入れ、シユシユ、くるみボタンゴム、メッセーじカード、うちわ、ペン立てなどがあります。人と関わり、働くことに関心をもつことや、道具や機械の正しい使い方を知ること、自分の役割が分かり仲間と協力して作業をするを目標としています。

4 高等部

高等部では、普通コースと職業コースの二つのコースがあり、「働く人になろう」をスローガンに日々学習や部活動に励んでいます。普通コースでは働くことに喜びを感じ、進んで仕事に取り組むことを目指しています。手芸や紙工、クラフトなどのものづくりを行う作業学習を行いながら福祉就労を目標としています。また、職業コースでは働くために必要とされる知識や技能、態度を身に付けることを目指しています。縫製や木工、クリーニングなどの就業を想定した学習を行いながら一般就労を目標としています。さらにデュアルシステムにより実際の会社での実習も行つて就職に繋がっています。



▲東海地区サッカー大会 優勝

5 防災教育

平成二十四・二十五年度と県の指定を受け、防災教育推進活動に取り組んできました。

「高めよう防災力！守ろう私たちの命！つなげよう地域の輪！」を推進テーマにあげ、災害時に自らの命を守ることでできる児童生徒の育成を目指しました。推進一年目は、具体的な訓練から課題を見つけ出しました。二年目は、児童生徒一人一人の状態に応じてどのように取り組んでいくのかを検討しました。児童生徒にわかりやすく提示し、繰り返し学習する中で実践を積み重ね、行動の第一歩を児童生徒自身が踏み出せることを目指して取り組んできました。

今後、いつ起こるかわからない大

6 PTA活動の紹介

本校PTA活動は、まず「保護者が楽しく負担無く」を考えています。

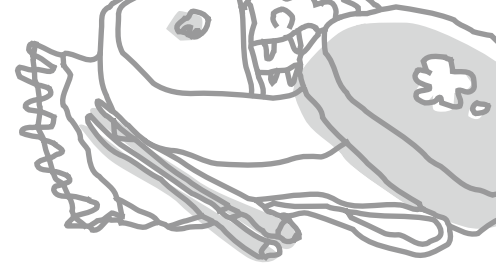
主な活動組織は、広報委員会（会報、文集の作成）、研修委員会（講座、研修会の実施）、福祉委員会（PTA奉仕作業、サポーター養成講座の実施）、ベルマーク委員会（ベルマーク集計作業）、そして、おおとばフェスタのPTAバザー（食品バザー、不用品バザー）、がやがや会議（保護者同士の相談、情報交換会）、ホリデースクール（クリスマス

ス音楽会、お楽しみ会）、地区委員会（施設・作業所見学、PTフォーラム、地区レクリエーション）があります。

前年度の反省点をきちんと引き継ぎし、改めて新年度役員が、よりよい活動になるように、そして、できる限り負担のないよう一年間の計画を立てます。その結果、年度の終わりにには各委員会が団結し、新しい友達もでき、よい情報交換がなされた楽しいという一年になっています。



▲ホリデースクール 大垣南高等学校とクリスマス会



お弁当の日

関市立倉知小学校PTA

輝く笑顔と団らん

ひろがれ「弁当の日」in

倉知小

「早寝、早起き、朝ごはん」

倉知小学校PTAでは、四年前から「弁当の日」の取り組みを始めました。本校PTAでは、十八名の家庭教育委員会が推進の中枢を担っています。昨年度の家庭教育委員会は、親子の絆、たくさん笑顔と感動を「をスローガンに掲げ、その一環として「弁当の日」の実践に取り組みました。

「弁当の日」に取り組んで三年目となった昨年度は、六月二十八日に「食卓の向こう側に見えるもの」と題して、佐藤弘氏（西日本新聞記者）を講師として研修会をもちました。十月二十二日と十一月十一日にお弁当を持参する「弁当の日」を実施しました。講演会では、500ccのペットボトルの炭酸飲料に60gの砂糖が含まれていることや、その影響で歯がボロボロになってしまった二歳児の事例が紹介されました。また、一人暮らしの大学生の食生活の紹介もありました。朝ご飯を食べない学生、スナック菓子だけの朝食、パンと牛乳だけの朝食…。小学生でも中学生でも、できるだけ早い時期に食に対する正しい知識を身に付けることが、その後の一人暮らしの生活を支える土台となることも実感することができました。この日の講演会に参加したのは、保護者・職員百十名、児童七十一名。他校PTAからの視察もありました。参加した保護者からは、「講師の『食を教える』ではなく『食で教える』という言葉が印象的でした」「『お弁当（料理）を作ること、大人が子どもに感動する。子どもは大人の喜ぶ顔が見たくて、さらに張り切る。弁当の日、子どもたちをやさしく



弁当の日講演会 6月28日



講演会 炭酸飲料で溶けた2歳児の歯



第1回弁当の日
感謝の心で「いただきます」10月22日

やさしく「育てていく」との言葉が印象に残りました。」との感想が聞かれました。

この講演会を皮切りに「弁当の日」の取り組みを推進しようと考えていましたが、講演会後のアンケートや、学校が主催するアンケートにおいて、家庭における新たな課題が浮き彫りになりました。「就寝時間が遅い」「朝、起きられない」ため、「朝ご飯を食べたくない」「朝ご飯を食べる時間がない」に加え、「朝ご飯が準備されていない」から「朝ご飯を食べないで登校した」という事例さえありました。改めて、これまで文部科学省が提唱されてきた「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発にも力点を置きつつ、二回の「弁当の日」に取り組みました。夏休みには、二期開催の「弁当の日」に向けて練習していただくよう働きかけました。「弁当の日」に寄せる願いは、弁当作りに親子で関わりあう中で親子の会話やふれ合いがより増していき、食を作る楽しさ、食の大切さ、命の尊さを学びながら、日頃食事や給食を作っている方に感謝する心を育てることを願いました。昨年度二回開催した「弁当の日」は、子どもたちや保護者が無理せずできるようにレベルを分けました。

①ファーストコース 作ってもらったごはんやおかずを、お弁当箱に詰めてみる
②チャレンジコース 家族と一緒に、買い物・準備・調理・片付けなどをやってみる
③ステップアップコース 買い物・準備・調理・片付けなどができる範囲でやってみる
④オリジナルコース 一人で全部やってみる

それぞれの家庭や、子どもたちの学年の実態に応じ、子どもの数だけ様々な取り組みがありました。一年生では「ウインナーを焼いたよ。あぶらがパチパチしてたけど、うまくできたよ。」「いつもより三十分早く起きてお手伝いしたよ」などの感想が聞かれました。オリジナルコースにチャレンジした二年生児童もいました。「夏休みに家族に教えてもらっ

て、包丁の使い方や、フライパンでの焼き方がわかったよ。」と。

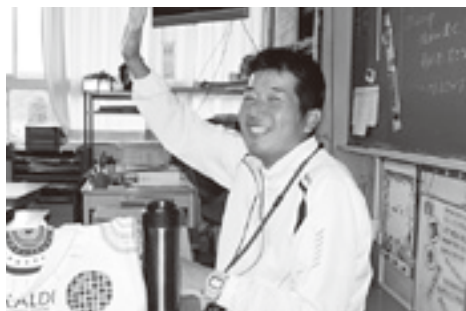
一方、「子どもを学校に送り出さなければならぬ日でもあり、自分も出勤しなくてはなりません。食の大切さや、お弁当の大切さはわかりますが、負担が大きいです。夏休みや土日など、ゆったりとした時間の中、親子で台所に立つことで会話がやりとりできる。そんな取り組みでよいのではないのでしょうか。」との意見も寄せられました。

食を通して、食の大切さや親子の絆を確かめる「弁当の日」の取り組みですが、日々、目の前の食事や弁当に込められた親の思いに感謝できる子を育てたいと考えます。それは、どこか親も子も時間的にも心的にも余裕のあるときに、「食事作りを一緒にしながら、学校のこと、家庭のことを会話する」そんな時間が持てるよう、ちよつと家庭を見直しませんか。そんな取り組みが基本なのかも考えます。

各家庭の生活様式や価値観が多様化し、PTA活動への参画に抵抗感を感じていらっしゃる保護者の姿もあります。何が大切な行動か、今一度振り返りながら、「弁当の日」をはじめとしたPTA活動について精査したいと考えています。



第1回 ステップアップコースに挑戦したよ



第1回 担任もオリジナルコースです



第2回弁当の日
おいしいよ お弁当 12月11日

保健室ノート

●岐阜市立長良小学校 養護教諭
亀山 智加枝

「プラス一品」これならできる」

昨年度、運動会練習のたびに、体調不良を訴え、救護テントにやってくる子たちがいました。水分補給と休憩をこまめにとっているにも関わらず、決まって同じ子たちが、すぐに不調を訴えてきました。朝から覇気がない、授業中ボーッとしている子もいました。彼らに生活の様子を聞くと、朝食が十分でないことがわかりました。しっかり朝食をとっていれば、きっとこの子たちは、もっと力を発揮できるのにと残念に思いました。そこで、子どもたちの朝食に対する意欲を高める指導を次のように実施しました。

はじめに、朝食が主食だけでは栄養が足りないことに気づくよう、朝食に必要な

【表】の取組を行いました。親子での生活見つめを通して、子どもが生活リズムを改善していくことをめざした取組です。配布した表は、早寝、早起き、朝食、歯みがき、排便についてチェックでき、五日間目標をすべて達成したら百モリ（点）になるよう設定しました。朝食

については、赤・黄・緑の食品を食べることができた日は、点がたくさんつくようになりました。さらに、バランスのよい朝食作りの参考になるよう、食品群カードを全家庭へ配布しました。カードを冷蔵庫等に貼れるよう防水のマグネットシートに印刷したことの効果は大きく、多くの家庭で活用していただきました。

この取組を通して、「毎日親子で、食品群カードを参考に朝食メニューを考えています。」「緑の食品がなかったことに気づき、食べるようにしました。」など、朝食内容を見直す家庭が増えました。

自らの課題に気づき、「これならできるかも」「やってみよう」と進んで健康生活が改善できる指導が大切だと考えます。長良小学校では、これからも、学校とPTA、関係機関が連携を図り、将来

たくましく生きぬく長良つ子を育てる朝食指導

な栄養量とご飯だけの栄養量をレーダーチャートで比較し、提示しました。その後、必要な栄養量をとるための食事について、メニューを一品ずつ足していき、栄養量の増加を子どもたちが実感できるようにしました。「自分の朝食は、十分な栄養がとれていない」と気づいた子どもたちは、「一品でも多く食べて、健康な体をつくりたい」と意欲を持つことができました。

さらに、子ども自身でも朝食の用意ができるよう、火や包丁を使わなくても簡単に用意できるメニューを紹介しました。例えば、体をつくる赤の食品には、ソーセージ、ヨーグルト、牛乳、チーズ、納豆、ハム、チーズかまぼこ、しらす干し、ゆで卵（事前に茹でておく）などがあります。体の調子を整える緑の食品には、プチトマト、バナナ、みかん、いちご、ぶどう、レタスなどがあります。これらをいつもの朝食に一品足すだ

にわたってたくましく生きぬく長良つ子を育てていきます。



火や包丁を使わなくても簡単に食べられる食品はたくさんある。



必要な栄養量をとるためには、どれだけ食べるとよいか確かめる指導。

食品群カードを冷蔵庫に貼り、親子で朝食のメニューを考えた。



保健指導の時間は楽しく、あっと驚く発見がある。

けで、必要な栄養量に近づきます。子どもたちには、実物を見せ、「これなら自分で用意できるよね。明日からプラス一品食べてみよう。」と伝えました。指導後、「パンしか食べなかった子が、ヨーグルトを食べていくようになりました。」「筋肉をつけたいからソーセージを買ってきてほしいと言われるようになりました。」「とおうちの方からの喜びの声が届きました。中には、「今日からぼくがスクランブルエッグを作るから。」「と一緒に朝食づくりを手伝うことができるようになった子もいました。

「学校とPTAが連携して、

長良つ子の健康を育む」

生活習慣チェックの結果から、朝食を十分にとっていない子は、就寝時刻が遅いことが明らかになりました。そこで、PTAと学校が連携を図り、基本的な生活習慣を身につける【健康モリモリチェック



食品群カードは、防水のマグネットシートに印刷した。

安心できる教室

各務原市立那加第一小学校 教諭

奥野 泰成

私には、父親がいませんでした。しかしその分、母親は、私と弟を温かく励まし、時に厳しく叱りました。毎日忙しく働きながら、母親だけでなく、父親の役割までも、必死で果たそうとしてくれていました。

小学四年生の時、I先生が担任になりました。I先生は私にとって、人生で初めての男性の先生でした。I先生は、いつもは優しく、朗らかでしたが、叱るときにはとても厳しい方でした。父親のいなかった私にとって、大人の男の人の大きな声はとても怖く、最初の頃は、自分が叱られているわけではないにもかかわらず、体が震えたことを覚えています。

その年の夏、台風の影響で、授業は五時間目までとなり、保護者が迎えに来て、引き渡される措置が取られました。次々と周囲の友達には迎えが来て、帰っていききました。一時間もすると、宿題も終わり、読書にも飽きた私は、教室に残っているのが私とI先生だけになっていることに気付きました。I先生に目を向けると、先生は自分の机で何やら忙しそうにしている、とても話しかけることはできません。いつもより暗い校庭、はげしく窓に打ちつける雨に、私の心はほとんど不安になっていました。そんな時、I先生が、

「奥野さん、トランプでもしようか。」

と、声をかけてくださったのです。怖いと思っていた先生の口から、トランプという、何とも楽しい言葉が出てきたことに少し驚きながら、私はうなずきました。その後は、私が知る限りのすべてのトランプゲームに、I先生は付き合ってくださいました。勝ったり、負けたり、引き分けたり：先生が、私の機嫌を損ねない程度に手加減をして勝負をしてくれていたことは、大人になった今ならわかります。

「奥野さん、強いなあ」

と笑う先生の声は、私の心をくすぐったい気持ちにさせました、あつという間に時間は過ぎ、一時間以上が経過していました。ふと窓の外を見ると、はげしかった雨は止み、とても静かになってい

ました。

その日から、私の学校生活は劇的に楽しくなりました。先生はいつでも自分の味方をしてくれるという、自信にも似た、強い安心感を得たからです。それから、多くの尊敬できる先生と出会い、いつからか、私自身もそのような存在になりたいと思うようになりました。

教師になって二年目のある日、大きな台風の影響により、子どもたちを保護者に引き渡す措置が取られました。次々と子どもたちが引き取られていく中、最後に教室に残ったのは、A子さんでした。一人になったAさんは、宿題を終えるとしばらくして、おもむろに席を立ちました。そして、掃除道具箱からほうきを取り出し、彼女は教室の掃除をはじめたのです。黙々と掃除をする彼女を見て私は、

「ありがとう、A子さん。あなたはなんていい子なの。」

と、彼女をほめました。すると彼女は一言、

「ひまだから」

とつぶやきました。その瞬間、私の胸がぎゅっと締め付けられました。彼女の姿が、子どもの頃の自分と重なり、何かをしていないと不安でたまらない彼女の心中が、痛いほどよくわかったのです。そして、私は彼女と一緒に教室を掃除しながら言いました。

「この掃除が終わったら、何かをして遊ぼうか。」

すると、彼女の表情はぱつと明るくなり、「うん。」とうなずきました。

しばらく遊んでいると、A子さんのお母さんが迎えに来ました。Aさんは帰り際、

「先生、とっても楽しかったです。ありがとうございました。」

と、私に頭を下げて帰っていききました。静かな廊下には、私とした遊びを一つ一つお母さんに楽しそうに話しているAさんの声が響いていました。

私は教師として、子どもたちが安心して学校生活を送ることができる環境づくりを心掛けています。それは、安心感が生活に豊かさをもたらしてくれるというのを、I先生とAさんとの出会いによって実感したからです。授業がわかるという安心。信頼できる仲間がいるという安心。自分らしくいられるという安心。これらを追い求めていくことが私の責任だと思っています。そういった『安心』がいっぱい詰まった教室で、子どもたちの笑顔があふれる学級をつくることが、私の目標です。

15年間を振り返って

今から十五年前、平成十一年の二月に輪之内町に来ました。嫁の実家に協力をしてもらい、一年越しで、憧れのマイホームが完成と同時に新しい生活が始まりました。

引き渡しの当日は雪が降り積もり、雪景色が、私たちを静かに迎えてくれました。家を建てる間は、嫁の実家で酪農業を手伝いながら生活をしていました。結婚と同時に会社を辞めて、この先どうなるかわからない状態で家建て、普通では、考えられない不安定の中、未経験者が牛と向き合いました。「この先は大丈夫かな。」と嫁は思っていたのかもしれませんが。私自身は脳天気で「何とかなるさ。」と当時は意気込んでいたと思います。

酪農業は朝が早く、冬場は凍えました。また動物を扱うことの難しさと、厳しさを肌で感じました。

今振り返ってみると貴重な経験となりました。その後、仕事の方はサラリーマンに戻り、前の経験を活かした職種で、安定した生活が始まりました。一男、一女にも恵まれ、子ども達も小学生になり、地域の方々との交流も年を追うごとに深まりました。

の依頼があり、引き受けることになりました。活動内容は校区で地区懇談会やふれあいラジオ体操、ふれあい活動を行います。校区ふれあい活動では中学生ボランティアを募り、事前に計画を練り、当日は小学生と交流を深めながら企画したゲーム等で活動を行います。また「早起き・朝ごはん」「あいさつ」標語の表彰も行い、最優秀作品の標語は、横断幕にして輪之内町内の小・中学校に掲示して、啓発活動の推進を図りました。

昨年度より中学校のPTA役員の依頼を受けた為、青少年育成推進員を断るつもりでしたが、次の推進員が決まらないまま、両方を務めることになりました。中学校では郡PTA連合会の研究大会の発表があり、慣れない原稿づくりが大変でしたが、終わった後の達成感があり、あっという間の一年でした。

一方、青少年育成では、昨年より校区ふれあい活動として新しくモノづくり講座を始めました。「凧作り」「フェルトバック作り」「リース作り」「牛乳パックおもしろ工作」のブースを設置しました。どのブースも活気があり、小・中学生の交流が深まりました。今年度も両方の

ある年、青少年地区推進員の方に、次期役員の依頼を受けました。頼まれると断れない性格の私は、内容もわからないまま引き受けてしまいました。私も小学生の頃に、子ども会はどうも楽しい思い出があり、子ども達に少しでもいい思い出が残るようにという願いもありました。活動は地区の区長さんや小・中学校の地区委員さんと協力して行います。当時の区長さんの後押しもあり、サツマイモやトウモロコシ作りに挑戦して、子ども達と一緒に土づくりから収穫まで行いました。

私は全く経験が無く、地域の方々に教えて頂きながら取り組みました。もの作りを通して子ども達も旬の野菜を味わうことで、季節を感じることが出来たと思います。

また、岐阜県環境技術センターより講師を招き、高学年の子ども達を中心に地区の水路を流れる水の水質調査を行いました。地域を流れる川の汚れを知ることにより、家庭での汚水に対する取り組みの大切さを実感しました。二年間の活動を通して、私自身も子ども達と接することで、元気をもらった気がします。

任期を終える頃に、今度は青少年育成推進員

役員を務めることになりましたが、何事にも全力投球で取り組んでいきたいと思っています。

子どもは、家庭で育ち、学校で学び、地域で伸ばす、と言われますが、今までに経験したこととをふまえて、今まさにその意味を理解できず。この土地に来て子どもを授かり、親となり、学校の役員、青少年育成推進員を務めることにより、家庭での子育ての大切さを考える機会を与えられ、必死に勉強しているところです。

これからも、子育ては続きます。子どものおかげで今の私があり、父親としての私があると思っています。



“あきらめてはいけない”を 教えてくれたおやじ役員

多治見市立笠原中学校PTA

「携帯電話を落としました。」五月の資源回収の終了時に役員の母親から連絡がありました。「どこ？」と聞いたら、なんとびつくり！新聞紙が詰め込まれた十トン缶の中でした。缶の半分ぐらいの所で落とされたようで、業者の方に尋ねると「もう新聞紙で押しつぶされて割れている。今までも何度もあった。」という返事。普通なら諦めるところですが、「とりあえず探してみるか！」と声をかけると、おやじ役員達は「よしっ、探そう！」と缶の中の新聞紙を丁寧に取り出していました。

「五トン余りの新聞紙が被つていては見つかってもだめだろうなあ。」と思った時、「あったぞ」の声。取り出した携帯電話はなんと無事でした！おやじ役員達は歓喜の声をあげ、とても嬉しそうでした。私も涙が出るぐらい感動しました。

おやじ役員達の熱意が、なくした携帯電話を救ったと思いました。すばらしい役員に恵まれてこの一年間。私はすばらしい時間を与えていただきました。おやじ役員のみんな、ありがとう！



親子で一緒に魚つかみ

瑞浪市立土岐小学校PTA

土岐小学校は瑞浪市の中央部に位置し、南には恵那山へ続く屏風山、東には学校のすぐ前を土岐川が流れ、自然豊かな地域に位置する児童数三百四十五名の学校です。私たち土岐小学校PTAは、「輪（子・親・学校・地域）」を合い言葉に活動を行っています。本校のPTAには、「父親部」という部があり、毎年、夏休み後の九月初旬に、学校の前を流れる土岐川の河原で「親子ふれあい魚つかみ大会」を計画し、活動を行っています。この活動のねらいは、保護者と子どもが一緒に魚や水中の生き物を捕ったり、一緒に遊んだりする活動を通して、親子がふれ合う時間を持つというものです。

この時期、土岐川は増水しやすく、毎年続けて実施できていませんが、保護者が我が子に魚の捕まえ方を教えたり、捕まえた生き物について説明したりする姿は、子どもにとつてたくましく映っています。中には保護者の方が子どもより夢中になってしまう姿も見かけられました。

本校の地の利を生かしたこの取り組みを今後も継続していきたいと思っています。



土岐川清掃ボランティア

土岐市立泉中学校PTA

私たちの住む街には、街の名前がつく川が流れています。岐阜県内では土岐川と呼ばれ、私たちの街の中心部を流れています。愛知県内では庄内川と名前を変えます。

そんな私たちの街の顔でもあるこの川で、毎年花火大会が行われます。大人から子どもまで、街の多くの人が河原に集まって夜空の花火を楽しみます。その翌日の早朝より、泉中学校PTAは父親を中心に多くの子どもたちの参加を呼びかけ、ゴミで汚れた河原の一斉清掃ボランティアを行っています。

活動の目的は、毎年朝早くから地元の人たちがこのように花火大会で汚れた土岐川のゴミを拾い、綺麗にしていることを子どもたちに知ってもらうことと、親と子が協力して自分たちの街を美しくするということです。

このボランティアはまだ始まったばかりの活動です。街の人たちがこの活動に積極的に参加して、泉中の子どもたちとふれあいながら気持ちのよい汗を流し、大人と子どもとの交流の場をもてるように、これからも続けていきたいと思います。



父親が関わる意義

中津川市立付知南小学校PTA

付知南小学校では、年に一度学校の環境整備があります。

近年は、授業参観や学校行事についても父親が参加する機会が増えていますが、父親が子どもたちの学校生活を見ることはあっても、子どもが父親の活躍する姿を見る機会はありません。

そうした状況の中で、この環境整備に参加している父親の姿を子どもに見せることは、とても意義のあることだと思います。力仕事をしている姿だけでなく、その状況に合わせて仕切り、段取りをして、回りと協力しながら仕事を進める姿は、子ども達が学校生活の中で、友達と協力しながら行事を進める見本となります。

共働きが増え、父親も母親も同じ立場で子どもに接している家庭が多いのですが、子どもの母親に対する感覚と、父親に対する感覚は違うと思います。だからこそ、「頼れる父親像」を見せられる環境整備は父親のアピールの場であり、大切な行事となっております。

数少ない休日ですが、こんな楽しみを持って参加する環境整備は、結構楽しい行事です。





想像ラジオ

いとうせいこう 著 河出書房新社

中津川市立加子母小・中学校PTA

会長 武田省司



「想像ラジオ」：題名だけを見ればSF小説か、星新一のショートショートあたりの内容が頭に浮かぶ。ラジオと言えば中高生の頃、ラジオの深夜放送を、ながら勉強でよく聞いていた頃が懐かしい。でも最近では車での移動時間に少し聞く程度で、色々な情報はテレビ、パソコン、スマホなどから入ってくる。その為、つい懐かしさのあるラジオという言葉に惹かれたのか、テレビでも見たことのある著者、いとうせいこうの名に惹かれたのかはわからないが本屋で手にとまった。

物語はあの3・11の津波で「樹の上の人」になってしまった、DJアークのお喋りから始まる。自身の悲惨な出来事とは無縁のように、自分の生い立ちから、なぜ今ここにいるのか、これから何処へいくのか：すべて死者としての言葉がDJらしい軽妙な語り口で発せられる。途中、ハガキや曲が紹介されたりしていかにも深夜放送らしく、でもすべては想像することです。

か聴くことができない放送。そして、その声も死者同志でないと伝わらない。我々、生者では聴くことができない不思議な放送。それが、想像ラジオ。

途中、物語は被災地でボランティアとして働くメンバーに変わり、そこで、残された人、それを支える人、全く関係ない人、それぞれの立場で、突然訪れたあの日から、死者に対してどんな思いでこれから生きていくかが議論される。そして読む者をも巻き込んで、立ち止まらせ考えさせる。私も強く考えさせられたところが、この物語のメッセージだったように思う。

亡くなった一万余千もの犠牲者の魂と、残された人々。それをも思うと、やはりその中間の世界があってもいいのではないかと作者と同様に感じてしまう。今までスピリチュアルなものを信じてきたことはいらないけれど、それを信じてまたその世界を作ったりして、死者の魂と寄り添う時間を持つことで、ようやく何かに救われ、前進できるのが我々（生者）なのかもしれないと思った。

生者でも強く想うことで、聴こえるのがこの想像ラジオ。もう二度と会うことは出来ないけれど、心配性だった母の言葉を、優しくかった義父の声を、せめて一度だけでもいいから聴いてみたい！そう思わせる一冊となった。



アルジャーノンに花束を

ダニエル・キイス 著 早川書房

岐阜市立加納小学校PTA

前年度副会長 垣内裕子



「この世かいにあるなんてしなかった皆さんのことをおぼいたし、ほんのちよつとのあいだだけれどそれが見れてよかたとおもっているのです」

この物語は精神遅滞の三十二歳の主人公チャーリーが手術により超知能を手に入れるという奇抜な設定で有名な本です。チャーリーが超知能を手にした後、またもとの六歳の知能に戻りますが、その時に賢かった時を振り返り、思いを綴っているのが冒頭の一文で大変印象深く、私は自分とチャーリーが重なる所がたくさんあります。

彼がこの手術を受けようと思った動機が胸に突き刺さる

のです。

「利口になりたい。利口になればみんなに愛されるのではないか？」チャーリーと同じ事を私もずっと考えていた学生時代でした。

テストで百点をとれるように、最高得点で名前が呼ばれるように、絵も習字も入選したい。いつも賞賛されることが愛される事だと勘違いしていました。しかし子どもを産んで愛とはそんな陳腐な価値ではないと日々感じています。

人は独りでは生きられない。常日頃思い、家族に話しているです。毎日何気なく買っている野菜や果物、身を暖かく包んでく

れる衣類や住居は私の知らない人達が生産し、流通され、月並みですが巨大なシステムに私達は生かされています。何かを知ることは見えない力を知り、感謝する機会を与えられている様な気がします。知識や器用さ、富や名声のある人を時に羨ましく思うけれど、そこに思いやりと感謝がなければ只の寂しい人間なのではないでしょうか？

チャーリーは実験を通じ成長と発達をします。その中で本当に大切な物を投げかけてきます。思いやりとは？友達とは？学ぶことの本质とは？

是非、ご家族で一読され話題にして頂きたい一冊です。

pleasure イラスト&クイズ



P.N. 大垣市なおひで (大垣市)



高野志映 (羽島市)

QUESTION -1

9人で食べるものは？



出題・今西佑羽 (羽島市)
〈答えは41ページ〉

柳澤家の巻

「人に気遣いのできる
優しさを持てるように」

わが家は私たち夫婦と長男（中一）、長女（小五）、次女（小一）、三女（年少）、そして妻の母の七人家族と、時代に逆らった大家族です。そんなわが家のルールを紹介します。

ルール① 家族イベントを大事にする！

お誕生日会やお正月、クリスマスなど、イベントがほぼ毎月あるので、みんなでそろって楽しく食事をして、いっぱいしゃべる！そして趣向を凝らしたママの手料理をとっても美味しいと言う！

ルール② みんなで楽しむ！

うちは人数が多いので、たくさん作っても足りません。ちゃんとみんな食べられるように仲良く分け合っします。一人だけ良ければいいという自分勝手な考え方は絶対ダメ！ 大きい子は小さい子に譲ってあげられる優しい心を持ちましょう！

ルール③ 後かたづけまでしっかりやる！

楽しい食事の後は後かたづけが待っています。しっかり協力して、やりっぱなしにはしない習慣をつけましょう。

人に気遣いのできる優しさを持てるよう、家族生活の中で育めることを大事にしていきたいと思っています。



わが家のルール

奥村家の巻

「朝食はしっかりと」
「自分の仕事もしっかりと」

わが家は、私たち夫婦と長男（高二）、長女（中三）の四大家族です。思春期真っただ中の子どもたちですが、家での会話は多く、仲の良い家族です。最近は子どもも部活動などで忙しく、家族全員で食事するなど、一緒に過ごす機会も少なくなっているのが現状です。今日は、子どもが小学校高学年頃から大切にしている、家族のルールを紹介します。

ルール① 「朝食はしっかりと」

朝は、全員がばらばらで食事をとりますが、しっかりと朝食をとることにしています。メニューは毎日ほぼ同じです。「ごはん」、「目玉焼き」、「おみそ汁（季節によっておみそ汁の具は違います）」、「納豆」、「ヨーグルト」です。一日の出発時のエネルギーを十分に補給することを子どもが小さいころから心がけています。

ルール② 「自分の仕事もしっかりと」

子どもにとって、勉強が仕事のように思われがちですが、わが家では家族の一員として毎日必ず行う仕事を決めています。高校生の長男は「お風呂の掃除」、長女は「お箸並べや食事の盛り付けなど」です。この役割を決めた頃は、なかなか続けて行うことができませんでしたが、ここ数年は自分の仕事として、進んで行うことができています。もちろん、仕事の後には「ありがとう。」という感謝の言葉をかけながら家族のコミュニケーションの一つとしています。

「家族のための」「家族のルール」をこれからも大切にしていきます。



立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



わたしのディフェンス。



MS&ADインシュアランスグループは、サッカー日本代表を応援しています。

www.ms-ins.com

子の思い

おべんとう作り

岐阜市立岩野田北小学校

三年 かとう れい夏

今日、お父さんのおべんとうを作りました。

お姉ちゃんに、たまごやきを作ってもらって、わたしは、じゃがいもとお肉とウィンナーをやいて、しおこしょうで味をつけて、えだまめ、やさい、シーチキン、おにぎり、かんづめを入れました。

お肉をいっぱいやいて、おべんとうにいっぱい入れました。お父さんがよろこんでくれるかなと思っていました。

おにぎりは、二こ作って、一こはお母さん、もう一こは、わたしを作りました。

きのう、ために作って、お父さんに食べてもらったら、

「もうちょっとかたくてもいいよ。」と、言われたので、今日は、ぎゅっ

と力を入れて、もう少しかたく作りました。

お父さんがしごとから帰ってきてから、

「おべんとうおいしかったよ。」と、言ってくれたので、とてもうれしかったです。また作ってあげたいと思います。

初めて作ったEM菌

関市立武儀西小学校

五年 川島 海結

四年生の総合の勉強で、EM菌づくりをしました。EM菌は、プール内の汚れを落としてプールの掃除をしやすくしてくれるもので、川を汚さない環境にやさしいものだとして知りました。そのEM菌を、今年は四年生のみんなで、ペットボトルで百二十七本作りました。初めて作ったので、とても緊張しました。

また、総合の勉強では、EM菌の育て方も知りました。EM菌の

ペットボトルを振って、キャップを開け閉めする仕事でした。開け閉めをする時、とてもくさいにおいがしました。

次の日から、キャップを開けて空気をぬく作業をしました。百二十七本も毎日、みんなで作業したので大変でした。

こうして育てたEM菌が全部発酵したら、プールの中に入れます。EM菌を入れてない所がないようにプールにまんべんなく入れました。

とても大変な仕事なのに、先ばいたちが今まで取り組んでいたと思うと、「よくがんばったなあ。すごいなあ。」と思いました。私も先ばいたちを見習って、これから大変な仕事でも進んでがんばっていききたいです。



親の願い

子どもの成長と地域社会

瑞浪市立稲津小学校

平成二十五年PTA会長

西尾 治徳

子どもの健やかな成長の基本はまず家庭です。家庭の役割はとても重要で、まずその一つは、子どもが最初に経験する人間関係が親であり、その中で言葉、しつけ、大人に対する信頼感を身につけていくと思います。

親としての立ち居振る舞い、言葉遣いに気をつけることを日々自

地域の方々に感謝

高山市立中山中学校

三年 金沢 実玖

昨年、地域の方から「登下校の仕方がよくない」という指摘を受けました。確かに、道路を集団で広がって歩いたり、だらだらと話しながら歩いたりする姿がありました。こうした姿に対して、それまでも「他の歩行者や自動車のことも考えて登校しよう」という呼びかけはされていましたが、先生方からも安全面でたびたび注意を受けていましたが、十分には改善されていませんでした。

そこで、前生徒会長が、校内放送を使って全校の仲間に訴えしました。中山中学校の生徒としての自覚と誇りをもち、登下校時のマナーを守ろうというものでした。自分たちのことなのだから、自分たちが考え、よくないところは自分たちで改めよう、と前生徒会長は語りました。

この放送後、登下校の仕方は良くなり、それに対して地域の方からお手紙をいただきました。私はそのお手紙のことを聞いた時、とても嬉しく思いました。中山中の仲間が、放送を真剣に聴き、地域の方々のことを考えて行動できるようになったからです。

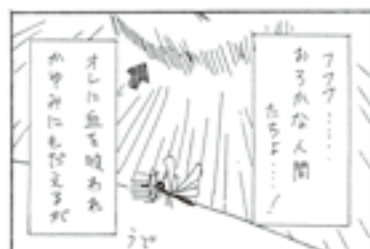
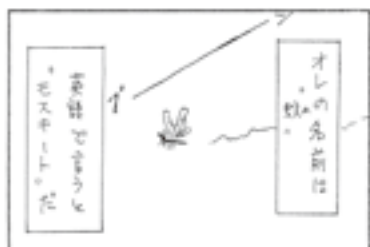
また、この出来事から、私たちは地域の方々から見守られていることを知りました。私たちの姿を伝えてくださる方は、必ず「事故があつてからでは遅いので、あえて連絡しました。」と言われるそうです。地域の方々から指摘があるのは、私たちの安全を考えてくだ

さっているからです。多くの方々が私たちのことを心配してくださる、このような環境のもとで中学校生活を送れる私たちは本当に幸せだと感じています。

地域のかかわりが薄い時代といわれますが、実際はかわりに気づいていないだけではないかと思っています。登下校の時に声をかけてくださる方、挨拶を返してくださる方、安全を確認してくださる方。私たちを見守ってくださる多くの方々の思いに気づき、その思いを素直に受け止めていきたいと思っています。

大垣桜高校 まんが研究部

ちなみに血を吸うのはメスのみです



逆さ言葉

てんぐのぐんて
(天狗の軍手)

出題・廣瀬茉莉(本巣市)

となり、そして成長を發展させるのに重要なのが共に住む地域社会と考えます。



学校や家庭と違い、地域社会は「様々なものがある場所」であり、「いろいろな立場の人間がいて人間関係がある場所」である。だから共に住む地域の人々と関わり合

うことで、いろいろな考え方、立場があり、自分勝手が通用しない事を少しずつ学び、人間関係の基本を身につける第一歩の大切な場所であると思います。積極的に地域社会に参加し子どもの行動、考え方に幅を持たせることが必要であると思います。

地域社会との関わり合いが稀薄になったとよく言われますが、私が住んでいる町ではまちづくり活動が活発で、子ども達が参加出来る行事が年間を通して多くあります。野菜の苗植え、収穫、お年寄りと子どものふれあいの場、町民運動会等の活動を通して、地域の大人と子どもとの関わりを深めています。子どもが我が家から巣立つ日まで、その地域で生活するわけですから、子どもを持つ親としてこうした活動に参加し、人としての協同性、社会性、弱者への思いやりを身につけて、自分の夢に向かって頑張つて欲しいと思います。

子どものために

安八町立登龍中学校PTA

忌部 久美子

子どもがまだお腹の中にいるときは、「無事に生まれてきたら、〇〇をしよう、△△をしよう」と、いろいろな夢といつか「理想の子育て、みたいなものがあつた。」

だがそれは小学校までの話で、子どもの成長とともに「母親としてこれでもいいのだろうか？」という不安も大きくなった。

幼い頃は成長の様子がよく分かる。育児書とかにも事細かく書いてあり、照らし合わせて、「ああ、順調だ。良かった。」と安心できる。しかし、中学生にもなるとそんな訳にはいかない。会話も少なくなり、学校からの便りもすぐに出さない。誉めることも少なくなる。中学校の次は高校受験が待っていることも手伝つてか、言いたいことはたくさんあるが、出てくる言葉は「勉強したの?」となる。

先日、高校生の娘が何気ない会話の中で、「帰ってきてお母さんがいなかったり、返事の様子とかで忙しいのかなと感じたりすると話そうという気持ちはなくなるかも。」と言った。知らず知らずのうちに、私自身の余裕がなくなっていたことを気付かされ、忙しさにかまけて、子どものことを無意識とはいえ、後回しにしていた自分を反省した。見ていないようで子どもはちゃんと見ているものだ実感した。

価値観の多様化、IT環境の発展、核家族化等、子どもを取り巻く環境の変化が叫ばれて久しいが、ふと、母親を取り巻く小さな社会環境の変化が、子育てにも大きく関係している様にも思える。私を取り巻く環境をどうすれば……。『母親としてのゆとり』『精神的ゆとり、時間的ゆとり、この二つが今の私には必要なのだ。』こんな時代だからこそ、人として当たり前のことがきちんと

教育の窓

仲間と共に成長ついでに

羽島郡岐南町立北小学校

教諭 横井 美樹

学級の中の一人一人が、一年間でどのような「道」を残して進級・進学していくのか、担任としてとても楽しみです。しかし、「道」は勝手に出来上がっていくものではない。一人一人が前向きに立ち向かっていき、それを見つめ直した時、初めて自分の学級で歩んできた「道」が出来るのだと思います。

昨年は、四年生を担任しました。学級の中には、「掃除を一生懸命頑張る児童」や「自分の苦手なことに挑戦しようと決めた児童」など、多くの素敵な姿に出会いました。

心に変化が表れてきました。

三学期「掃除を極める」というタイトルで黙って掃除にこだわる自分作りに、学級全員が挑戦しました。

☆少し気を付けただけで、黙って掃除ができることが分かりました。「いいねに時間いっぱい」ということが誇れることになりました。隅の方までこだわった掃除を続けたいです。

大垣桜高校 まんが研究部

メロン割り



逆さ言葉

だるまはまるだ
(ダルマは丸だ)

出題・木村龍一 (各務原市)

取組を通して、「仲間がいるから頑張れる」「仲間の姿から学び、自分の力に変えていく」素敵な姿に多く出会うことができました。

また、拳手を頑張ろうとしていた児童は、三学期の学級の宝物発表で、次のようなことを語りました。

☆私が一年間で成長したなどと思うことは、発表の回数が多くなったことです。恥ずかしくてなかなか出来ない私に、同じ班の仲間が「間違っても大丈夫。」と励ましてくれたり、発表が終わると「良かったね。」と言ってくれたりしたおかげで、今でも出ています。五年生に進級したら、今度は応援する側になって声をかけていきます。

仲間がいるから楽しい・仲間の存在があるから頑張れる。一年間、温かい心がいっぱい姿が多く見られ、とても幸せな時間を過ごさせてもらいました。

地域ぐるみで子どもを育てる

可児郡御嵩町立向陽中学校
教頭 塚本 修

「おにいちゃん。ズボン下がってるよ。ほら、上げないと。」入学式前日、体育館に生花を飾るために来校された年配の女性が、校門に座っていた卒業生らしき生徒に声をかけました。そして、その生徒のズボンに手をかけました。私は、その生徒が嫌がって、暴言を吐いて逃げて行く姿を予想しました。ところが、照れくさそうにしながらも、そのままズボンを上げてもらっていました。さらには、花瓶や生花の入ったバケツの運搬まで手伝い始めました。途中で花瓶の水がこぼれてしまうと、雑巾とバケツを持ってきて、私といっしょに床を拭いてくれました。

それから数日後、地域の公民館運営会議に出席させていただきました。「御嵩町の子どもが、

いけないことをしていたら、迷わず声をかけてください。見て見ぬふりをするのは一番いけないことです。」会議の中で、ある運営委員の方がおっしゃった言葉です。私の頭には、すぐに入学式前日の生徒の姿が浮かびました。また「小学生や中学生は、道で会うと元気に挨拶してくれまますよ。」「中学生や高校生が、お寺の境内の掃除を一生懸命してくれまますよ。」など、地域の子どもたちのよさもしっかりと見てくださっていました。御嵩町は、地域ぐるみで、子どもたちをよりよい方向に導いていこうとしていることがよくわかりました。

本校区は、小学校・中学校・高等学校が隣接し、六歳から十八歳までの様々な子どもに出会えます。よい姿を見かけることもあれば、改善すべき姿を見かけることもあります。現代社会では、少子

化・生活の豊かさ・異年齢集団の活動の希薄さなどから、地域社会が崩壊し始めていると言われます。父親・教師・近所のおじさん・警察などが怖い存在でなくなり、子どもが超えてはいけない一線がなくなってきたのです。さらには、ゲーム機や携帯電話の弊害として、顔を合わせてつくれる人間関係がなくなり、嫌ならリセットするため、相手の気持ちを考える心も育たなくなってきました。だからこそ、地域の大人が積極的に子どもたちに声をかけていくことが大切になります。

幸いなことに、本校にも地域の方々から中学生に関わる様々な情報が寄せられます。本当にありがたいことです。学校だけでも家庭だけでもなく、「地域ぐるみで子どもを育てる」ことの重要性をひしひしと実感している毎日です。

Q1

各国の国旗を調べてみましょう!
オーストラリア、ニュージーランドなどのオセアニアの国旗には同じ星の並びがあります。それは何でしょうか?

- ①北極星
- ②北斗七星
- ③南十字星
- ④南斗六星



▲オーストラリアの国旗

ヒント

南半球の夜空に輝く星座だよ!

Q2

ことわざが完成するように□の中に当てはまる漢字を入れましょう。
順に読むとある言葉になります。それはなんでしょう?

◎時は□なり

(時間は貴重なものなので、無駄にはいけない)

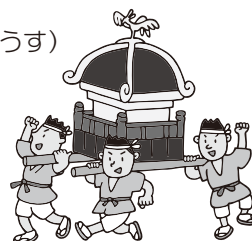
◎水を得た□のよう

(その人に合った場で生き生きと活躍するようす)

こたえ: □ □

ヒント

お祭りなどの縁日でよく見かけます



3月号クイズ答え

Q1 ③反時計回り

Q2 あけぼの

3月号のクイズ当選者

北川 慎也(岐阜市) 鈴木 麻友(郡上市)
南 亜美(羽島市) 三宅 花(美濃加茂市)
坂井 遥香(各務原市) 岩田 英治(美濃加茂市)
池田 涼菜(大垣市) 渡辺 綺音(加茂郡)
大角沙矢香(大垣市) 杉山 華梨(加茂郡)
徳田りゅうき(関市) 安田 恵輔(多治見市)
三島 唯(郡上市) 牧野 にこ(中津川市)
尾崎 英一(高山市)

応募方法

応募者は、はがきで、7月末までに下記の宛先へお送り下さい。

(1人1枚・当日消印有効)

※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8824

岐阜市北八ツ寺町7

岐阜県校長会館内

岐阜県PTA事務局

「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』

への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、

逆さ言葉などを記入して下さい。

●7月号クイズの答え

●郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名

●『わが子のあゆみ』
への感想・意見

●「なぞなぞ」の
問題と答え

●逆さ言葉

親子ではてな

7月号のクイズ



★お試しクッキング★

枝豆と長芋の
ポタージュスープ



岐阜県は、昔から枝豆の生産が盛んです。夏が旬の枝豆は、「畑の肉」と呼ばれる大豆と同じ、質の良いたんばく質のほか、歯や骨を作るために必要なカルシウムやカリウムをたくさん含んでいます。さらに大豆には含まれないカロテンやビタミンCも、枝豆にはたくさん含まれており、とても栄養いっぱいのお食糧です。

長芋は、胃などの粘膜を護り、体に入ったタンパク質の消化吸収を助ける「ぬめり成分」やビタミンB群、ビタミンC、食物繊維などをバランスよく含んでいる健康的な食べ物です。長芋にたくさん含まれているジアスターゼという消化酵素は熱に弱いので、火を通さないで食べることをお勧めします。

この枝豆と長芋のポタージュスープは、長芋を生そのまま食べるので、食べ物を消化する力を最大限に生かすことができます。初夏の季節にぴったりの美しい緑色のスープです。少し冷やして飲むのがおすすめです。火を通さないことから、調理をしただけで早く食べてください。また温めて食べるときは粘りが強くなりますから、牛乳などの水分を少し加えて調整してください。

材料
4人分

- ・枝豆(塩茹でしてさやからだす) 120g
- ・長芋 150g
- ・コンソメ 小さじ1/2
(沸騰させてすこし冷ました
お湯60mlで溶かす)
- ・牛乳 300ml
- ・生クリーム 50ml
- ・塩 少々
- ・こしょう 少々
- ・飾り用の茹でた枝豆 少々

●栄養価(1人分)

エネルギー	171kcal
たんばく質	7.1g
脂質	10.4g
カルシウム	120mg
鉄	1.1mg
亜鉛	0.7mg
ビタミンA	68μg RE
ビタミンB ₁	0.14mg
ビタミンB ₂	0.17mg
ビタミンC	8mg
食物繊維	1.8g
食塩相当量	0.9g



作り方

- 1 枝豆を塩茹でして「サヤ」からとり出す。
- 2 長芋は皮をむき、酢水につけてから、すりおろす。
- 3 枝豆、長芋、コンソメをミキサーにかける。
- 4 枝豆の粒がなくなったら、牛乳、生クリームを入れて、さらにミキサーで混ぜ合わせる。
- 5 塩、こしょうで味を調え、器に入れ、飾り用の枝豆をのせる。

■作品を募集しています。イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキに描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所・学年と氏名を忘れずに。写真・書写は郵送願います。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな?」の回答とともに送り下さい。

宛先はいずれも

〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで。

採用の分にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度始め(4～5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問合せください。

■平成26年度県PTA連合会広報委員

今年度の県PTA広報委員・郡市代表広報委員の皆さんを紹介します。「わが子のあゆみ」「岐阜県PTA新聞」に関する活動をします。よろしく願ひ致します。

- ▶委員長＝平下絵実(本巣郡北方西小)
- ▶顧問＝中野真由美(岐阜市合渡小・校長会)
- ▶担当副会長＝林 金義(中津川市蛭川中)
- ▶副委員長＝市川賢一(中津川市坂本中)
- ▶委員＝菱田賢二(海津市東江小) 別府徹也(美濃市大矢田小) 亀山泰信(美濃加茂市伊深小) 木野村匡(多治見市多治見中) 高村正博(高山市北小) 以上評議員、栗田しづ代(岐阜市長森中・岐阜地区) 菱田恵子(海津市城南中・西濃地区) 長屋和典(関市板取中・美濃地区) 齋藤元徳(可児市広陵中・可茂地区) 中島俊博(下呂市小阪中・飛騨地区) 以上地区代表
- ▶郡市広報委員＝堺 祐子(羽島市羽島中) 水野いづみ(各務原市緑苑小) 青井克樹(羽島郡笠松小) 宮本陽子(瑞穂市生津小) 高田浩規(本巣市真正中) 堀 有香(本巣郡北方小) 瀬上菊乃里(山県市伊自良南小) 林 茂樹(大垣市赤坂小) 中山剛志(養老郡日吉小) 西村輝美(不破郡今須小中) 篠田なつ子(安八郡輪之内中) 松浦奈保子(揖斐郡大野小) 河合裕司(美濃市牧谷小) 末武大吉(郡上市明宝小) 守屋 努(美濃加茂市山手小) 齋藤元徳(可児市広陵中) 大岩幸子(加茂郡白川北小) 笠井よし子(加茂郡神淵小) 奥村文和(可児郡上之郷小) 山田 徹(多治見市脇之島小) 大橋知成(土岐市土岐津中) 中村恵嗣(瑞浪市瑞陵中) 山内志保(恵那市東野小) 下裏直哉(高山市松倉中) 清水陽一(飛騨市古川西小)

■編集後記

いつの時代にも、子ども達に対する親の心配の種は尽きません。一昔前、暮らしが豊かになった頃に登場したマンガ。「マンガばかり読んでいて勉強しない」と言いました。テレビが家庭に普及し始めると「テレビばかり見ていて勉強しない」と。ゲームが家庭で楽しめるようになると「ゲームばかりやっていて勉強しない」と。そして今、「スマホ・ケータイに夢中になって、勉強どころか夜も手放さない」と。マンガやテレビ、ゲームのうちは、その《害》も、ある程度は保護者の掌の中にありましたが、スマホ・ケータイ・パソコンの《害》はこれまでとは全く異質です。《犯罪》と表裏一体の危うさが付いて回ります。小学生から高校生を含む少年には、責任能力がありません。子ども達を守るのは、第一に親です。どのような危険があるか、どのようにしたら守れるのか。家庭で親子で話し合い、「親子であんしんネット」の夏をお過ごしください。

「なぞなぞの答え」

①給食

■9月号のお知らせ(予定)

特集・講演・子どものコーチング／表紙＝桜尾小／学校の宝物＝早田小・青基小・伊深小・恵那北中／私の宝物＝川島中／弁当の日＝岐北中／家庭教育学級応援団＝県教育委員会社会教育文化課シリーズ「療育」＝関特別支援学校／保健室ノート＝太田小／半生記＝長森中／ボランティアニュース＝関ヶ原小・墨俣小・大野小・輪之内中／一冊の本＝席田小・下有知中／わが家のルール＝宮代小・武儀中／ふるさとの伝承＝大垣西小／我らが部活＝坂本中／私たちのPTA＝小川小／きらり!キッズ!＝中原小／作文＝中川小・蘇原二小・白鳥中・蘇原小・岩邑中・伊自良中・大野中小／お試しクッキング＝岐阜県学校栄養士会

わが子のあゆみ

平成26年7月1日 発行
初夏号 第66巻1号
通巻433号

頒価 200円(年間 1,000円)

*お問合せ申込みは、各学校または右記事務局へ。

編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
発行／岐阜県PTA連合会
〒500-8824 岐阜市北八ツ寺町7 岐阜県校長会館内
電話／058-262-3257 FAX／058-262-3259
ホームページ／http://www.g-pta.com
Eメール／info@g-pta.com
印刷／サンメッセ株式会社

美濃小学校のある旧美濃町は、国の重要伝統的建造物保存地区に指定されている「うだつの町並み」が残り、「美濃祭り」や「流し仁輪加」などの伝統文化が大切にされている地域です。美濃の仁輪加は、独特の美濃弁で演じるユーモアたっぷりの寸劇です。江戸時代中期に上方や江戸で流行した仁輪加が、江戸時代後期に美濃に伝わり、演じられてきました。美濃の仁輪加は、お囃子を奏でながら歩き、町の辻々で演じられたことから「美濃流し仁輪加」と呼ばれています。

現在では、四月の第二土・日曜日に開催される美濃祭りでも町内ごとに演じられ、夕刻には十五の町内が参加するコンクールも行われています。

本校では、そんな仁輪加にチャレンジしています。三年生では、総合的な学習の時間に仁輪加を学習しています。地域に住む仁輪加連盟の方から、仁輪加の歴史やその構成について学び、仁輪加の良さと共に代々受け継がれてきた思いを感じ取ります。さらに、直接指導を受けながら、台本づくりからお囃子、寸劇の練習、発表という一連の過程を体験します。班ごとに分かれて、学校での出来事や身近な生活などを題材に、「出口落ち」と呼ばれる同音異義の掛け合わせでできる「落ち」を考えます。この「落ち」の出来によって仁輪加の出来栄が左右されることもあり、子どもたちは様々なアイデアを出し合っており、取り組みます。「落ち」が決まると、「やあ、やあ、そこにおんさるの、○○さんやねえかな」と美濃弁による台詞を考えます。子どもたちは、美濃弁によるユーモアに富んだ会話や風刺を通して

て仁輪加の魅力を感じ取っていきます。リコーダーを使ってお囃子の練習もします。

仁輪加が完成すると、学級、学年で発表会を行い、互いの落ちや演技を交流し合います。また、全校集会や参観日にも発表します。全校児童や保護者の皆さんからの温かい励ましや評価の言葉に、自信ややりがいを感じています。

また、「仁輪加クラブ」をつくり、クラブ活動でも仁輪加に取り組んでいます。四年生から六年生の児童が一つになって仁輪加に取り組んでいます。ここでも、仁輪加連盟の方の指導は欠かすことができませんが、先輩から後輩へと美濃小仁輪加の伝統が引き継がれています。

仁輪加クラブは、各種イベントにも参加しています。特に、美濃路の秋を彩る「美濃和紙あかりアート展」は、大きな発表の場となっています。大勢の観客の前で、仁輪加を発表するのは大変緊張しますが、やり遂げた後の喜びは何事にも代えられない貴重な体験となっています。

また、各町内では、子どもたちにお囃子を教えています。小学生も参加し、将来にわたる美濃流し仁輪加の継承に備えています。美濃祭り本番でも、小学生が仁輪加のお手伝いをしたり、各種イベントに参加したりしている町内もあります。

このように、子どもたちは、美濃弁によるユーモアに富んだ会話や風刺を通して仁輪加の魅力を感じとっていきます。



▲あかりアート展 仁輪加発表(仁輪加クラブ)



▲市制60周年記念行事での仁輪加発表(町内の子ども仁輪加)



▲参観日 仁輪加発表(3年生)



▲美濃祭りでの流し仁輪加



▲仁輪加の練習風景(仁輪加クラブ)

活躍する子ども達



自然とのふれあい
裏山には日陰斜面があって、冬場は絶好のそり遊びの場。飼料袋がそりです。



学校茶園のお茶摘み
全校で茶摘みをし、3年生が中心となってお茶学習を進めます。ここでもお世話になっています。



学校田の荒がき
5年生は米作りを学習します。田起こし、荒がき、田植え、稲の観察、稲刈り、縄ないと本格的です。地域指導者にお世話になっています。写真は荒がきの一場面。



子ども歌舞伎
昨年秋の公演演目「糸桜本町育」(いとざくらほんちょうそだち)の一場面です。



縄ない・しめ縄作り
はざがけをして干した稲わらを使って縄をなったり、しめ縄を作ったりします。地域のおじいちゃんが教えてくださいます。



鮎の友釣り体験
白川は、鮎の友釣りをする人たちで賑わいます。漁協の方の指導で5年生が体験します。

心に刻もう! ふるさと東白川 ～地域は子ども応援団～

**きらい!
キッズ!**

東白川村立東白川小学校

東白川小の代表的な行事の一つに、毎年新緑の四月末に行われる全校登山があります。村を取り囲んでいる千メートル級の六つの山を六年間で登ります。登山道入り口からは、なかよしグループ(異学年集団)で登り、入学間もない一年生や六年生がリードします。今年度、実に二十九回目の登山となりました。保護者や地域の皆さんもたくさん参加されます。このように長きにわたって続いた全校登山の陰には、PTA役員と教職員が、安全に登山できるように前年の夏から次に登る山の下見や事前の登山道整備などを脈々と継承してきた努力があります。子どもたちにもそれを伝えていきます。

秋には、毎年九月に郷土歌舞伎公演があります。これも三十八回目を迎えます。六年生の子どもたちには、卒業記念としての演目に参加するチャンスが与えられます。歌舞伎出演によって独特な台詞の言い回しや所作を覚えるという貴重な体験だけでなく、歌舞伎を支える裏方の皆さんの努力と心意気がある。この伝統文化が継承されているのだということを学んでいます。

この他にも、鮎の友釣り体験、朴葉寿司や五平餅作り、縄ない・しめ縄作り、地域活性化の努力をされている講師による授業など地域の皆様の応援によって、子どもたちは先人の豊かな知恵を学び、素晴らしいふるさとを胸に刻む体験をし、キラリと輝く学校生活を送っています。

全校登山
今年は新栄山(973m)に登りました。信州方面の山並みが美しく輝いていました。



村にあった3つの小学校が昭和55年に統合されて35年目を迎えています。



夢中! 熱中! 我らが部活

熱く 燃え上がる『小金田中魂』

関市立小金田中学校

柔道部



『中体連県大会団体戦出場』を目指して取り組んでいます。本校には武道場がある他、地域の指導者の方々にも恵まれており、日々の練習は『声を出す、休まず続ける』という2つのことを継続させることが大切だと皆で確認して取り組んでいます。現在黒帯は2人ですが、メンバー一人一人は確実に力を高めています。

サッカー部



『県大会上位進出』を目標にして、練習中は先輩後輩の区別なく、高い競争意識をもちながらも楽しく取り組んでいます。視野を広くし、周りを見ながら自分が何をすべきかを考え、連動した動きができることを意識しながら練習しています。また、サッカーができることに喜びと感謝の気持ちをもち、それぞれの持ち場で全力を尽くすことを大切にしています。

男子ソフトテニス部



『公式戦で1つでも勝ち進む』ことを目標に、日々の部活動に取り組んでいます。最近では、練習試合を積極的に行うことで、相手の良さや自分の課題を見つけて、個々のプレースタイルを改善しながら練習に励んでいます。また、結果の勝ち負けのみにこだわらず、声や雰囲気や相手に勝つことも大切に行っています。

女子ソフトテニス部



県大会はもちろん、『全国大会出場』までを目指して練習に励んでいます。昨年度は、練習試合を重ねてレベルの向上を目指しました。そこで、見つかった課題を克服しようと部活動の中では、『自ら動く』を合言葉に、お互いに声をかけ合ったり、アドバイスをし合ったり、励まし合ったりして、技術や集中力を高め合っています。

野球部



『全国大会出場』を目標に活動しています。土日は一日みっちり練習、礼儀やあいさつも大事にしながら、社会に出てからも通用する体力・精神力・人間力を鍛えています。周りの状況をよくとらえながら、必要な行動を判断し、自分から考えて動けることを大切にしています。昨年、一昨年度に流した悔し涙を忘れずに、目標に向かって全力を尽くします。

トレーニングクラブ



『自主』をモットーに活動しています。部活動には入らないけれど、体力づくりをしたいと考える者が集まって活動しています。野球のクラブチームに入っていて部活動に所属できない生徒もいれば、土日は自分の時間を確保するために部活動には入らないけれど、運動はしたいという生徒もいます。主にランニングや筋力トレーニングをしています。

女子卓球部



『中体連美濃大会優勝』をめざして、団体戦、個人戦とも全力で臨みます。また、卓球を通して社会に通用する大人になることを目指して練習しています。朝練習では体力づくりを、放課後練習ではコーチに教えて頂いたことを応用して、フォアやバック、ツッツキ、フットワークの強化などを自分たちで工夫して行い、集中力を切らさず技を磨いています。

男子卓球部



『団体戦では中体連県大会出場、個人戦では公式戦上位入賞』をめざしています。そして、『真のスポーツマン』と言えるように、技術力だけでなく、挨拶やマナーなど人間力の向上にも力を入れています。基礎練習のほか、3日目練習や試合形式の練習もして、その中でアドバイスをし合い、お互いを高めています。

ソフトボール部



『県大会優勝』を目指して日々練習しています。平日は月曜日以外の朝練習と放課後の部活があり、土日は練習や練習試合を行っています。『自分たちで考えて動く』『声を出してよりよい雰囲気をつくる』『キャッチボールやランニングなどの基礎練習を大切に』『周りの人への感謝を忘れない』という4つのことを大切にに取り組んでいます。

陸上競技クラブ

本校には陸上競技部がないため、毎年、中体連美濃地区陸上競技大会と駅伝大会には、学校選抜の選手が出場します。大会2週間程前から練習を行い、限られた時間の中で体力と技術を向上させるとともに、学校としての志気も高めて本番に臨みます。昨年度は、美濃地区陸上競技大会で、男子総合優勝、女子総合3位、男女総合準優勝を果たし、県大会出場者も32名と本校過去最多を達成しました。今年ももちろん団体総合優勝をめざします。



男子バレーボール部



『人間的に強くなり、その結果として県大会出場を果たす』を目標に、ひたむきさ・素直さ・丁寧さをモットーとして、練習しています。技のスキルアップを目指し、パスやボールつなぎを重点に練習しています。また、組織的なプレーを心がけながらひたむきに努力しています。

女子バレーボール部



『県大会出場』を目指し、笑顔で合言葉に練習に励んでいます。仲間を大切にし、辛い時でも笑顔で明るく大きな声でがんばれることが、将来の人間力につながると考えています。遠征や他校との合同練習も積極的に行い、技術面でもマナー面でも刺激を受けながら、成長し続けているチームです。

美術部



鉛筆デッサンなどの基礎から始まり、個々でどのコンクール等に応募するかを決めて、じっくりと制作に取り組んでいます。個人活動が中心なので3年生は卒業制作について集団で話し合い、テーマを決めて制作しています。内容は、ステンドグラス、木彫り、イラスト、ペーパークラフト、グラフィックアートなどと多彩です。

女子バスケットボール部



『バスケットボールが大好き』な仲間たちが集まって、楽しく練習をしています。練習試合では、毎日の練習の成果を試しています。また、他の中学校と合同練習を行い、緊張感を味わいながら力をつけています。バスケットボールを心から楽しもうとはりきっています。

男子バスケットボール部



『関市大会優勝』を目指し、『1、大きい声を出す。2、練習を一生懸命やる。3、朝練、部活には必ず参加する。4、試合の時全員で勝ちに行く。5、最後まであきらめない。6、関市大会優勝』の六ヶ条を胸に、常に前向きに、常に自分と戦いながら日々練習に励んでいます。

私たちのPTA

北方町立北方南小学校PTA

平成26年度PTAスローガン

はぐくむ 家庭＋学校＋地域 心ひとつに

学校紹介

北方町は、昭和三十三年に旧生津村から北方町に分村合併しました。本校一帯は条里制の跡が残る田園地帯でしたが、都市化が進み、古くからの地域と新興住宅地域とが混在しています。開校十四年目を迎え、地域の中での学校の存在が位置付いてきたことを感じます。

学校の教育目標は「夢と智慧をもって共に生きぬく子」です。合い言葉の「きらり輝く南っ子」を目指して、三七六名の児童が「四つのきらり」（あいさつ・時間・くるピタ・だまつてそうじ）を本物にすることにこだわっています。

PTA活動目標

家庭・学校・地域が協力していく土台の上に、子どもたちは心豊かに成長していきます。地域全体で子どもたちを温かく見守り、今一度子どもたちの成長にとって何が大なのか見つめ直し、親子とともに心をはぐくむ活動に努めていきます。

各委員会の活動

○子どもサミットの日

北方町内の一中学校三小中学校では、毎月末の最終授業日を「子どもサミットの日」と決め、ごみを拾いながら登校し、あいさつ運動を行っています。

この活動は、平成二十一年度から毎年、町内の小中学校の代表の子どもたちが、各学校の地域活動を報告する「子どもサミット」を開催し「ふるさと北方を大切に、町内の人々とのふれあいを深め、進んで地域に貢献できる私たち」を目指して話しあっています。北方町の魅力や問題点を協議し、「子どもサミット宣言」としてまとめ、実行するため「子どもサミットの日」を決めました。

子どもたちが、より良い北方町を目指して決めた素晴らしい取り組み「子どもサミットの日」が地域に根付いていくように、代表委員の子どもたちや先生方、PTAでは、執行部役員、学級委員を中心に、地域の方々のご協力もいただき、子どもたちと共に、ごみ拾い・あいさつ運動に取り組んでいます。

○母親委員会

保護者の親力向上を目指して、家庭教育学級を開催する母親委員会では、近年増加している携帯・ネットのトラブルから大切な子どもたちを守るため

○父親サークル

父親委員会から父親サークルへと移行し、お父さん方が気軽に参加ができる様に今年度から活動を始めました。活動内容は、運動場の側溝掃除、夏休み夜間パトロール、運動会の交通整理、親子で共に身体を動かして楽しむ「親子ふれあい活動」など、地域の方や先生方にもご協力いただき行っています。

子どもたちが安心して安全な生活を送るために活動する姿は、頼もしく輝いています。



自分も関わって作ったお弁当は、より一層美味しく、子どもたちの笑顔があふれます。



母親委員会の「すきなおかずの日」は、子どもたちが一生懸命作ったお弁当と笑顔がいっぱいです。



母親委員会の寄せ植え教室の取材をする広報委員さん。



月2回、朝の8時20分～10分間、PTA読み聞かせサークルによる絵本の読み聞かせを行っています。



父親サークルの親子ふれあい活動。たくさんの親子が参加し、楽しんでいます。



PTA父親サークルによる、運動場側溝掃除。